

伊達市第3次総合計画策定のための
市民アンケート調査結果報告書

令和4年1月

伊 達 市

目 次

I	調査の概要及び回答者の属性	1
1	調査の概要	1
(1)	調査目的	1
(2)	調査対象及び調査方法、回収結果	1
(3)	本報告書の留意事項	1
2	回答者の属性	2
(1)	性別	2
(2)	年齢	2
(3)	職業	2
(4)	居住地域	3
II	調査結果	4
1	市への愛着度と定住意向などについて	4
(1)	市への愛着度	4
(2)	今後の定住意向	6
(3)	市の魅力	8
(4)	市に不足していること	10
(5)	市の特徴と課題がまちづくりに反映されているか	12
2	市の現状と今後の取り組みについて	14
(1)	市の各環境に関する満足度	14
(2)	市の各環境に関する重要度	23
(3)	満足度と重要度の相関（優先度）	31
(4)	今後のまちづくりの特色	34
3	地域活動について	36
(1)	地域活動への参加意向	36
(2)	市民が行っている地域活動への感謝の程度	38
(3)	市の魅力を友人や知人にすすめたいか	40
4	公共施設について	42
(1)	公共施設を利用する際の移動手段	42
(2)	利用する機会の多い公共施設の自宅からの距離	44
(3)	公共施設の維持・管理コストの低減、効率化について	46
(4)	どのような施設から集約・統廃合を行うべきか	48
	資料：調査票	51

I 調査の概要及び回答者の属性

1 調査の概要

(1) 調査目的

本調査は、伊達市第3次総合計画（令和5年度～令和14年度）の策定にあたって、市への愛着度や今後の定住意向をはじめ、市の各環境に関する満足度と重要度、今後のまちづくりの特色など、市民の意識やニーズを把握し、計画づくりの基礎資料を得るために実施したものです。

(2) 調査対象及び調査方法、回収結果

項 目	内 容
調査対象	16 歳以上の市民
配布数	3,000
抽出法	無作為抽出
調査方法	郵送による配布・回収
調査時期	令和3年9月
有効回収数	1,059
有効回収率	35.3%

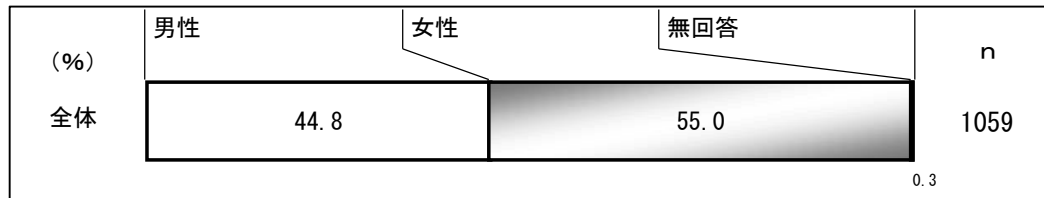
(3) 本報告書の留意事項

- ① 比率はすべて百分率（％）で表し、小数点以下2位を四捨五入して算出しています。従って、合計が100％を上下する場合があります。
- ② 基数となるべき実数（人数）は、“n＝〇〇〇”として掲載し、各比率はnを100％として算出しています。
- ③ 質問の終わりに【複数回答】とある問は、1人の回答者が2つ以上の回答を出してもよい問です。従って、各回答の合計比率は100％を超える場合があります。
- ④ 10代の回答者が30人（2.8％）と少数であったため、調査結果（P4以降）は、20代とあわせて「10・20代」として分析しています。
- ⑤ 令和2年度の「まちづくりアンケート調査」の結果と比較している部分がありますが、令和2年度の調査は、令和2年7月に16歳以上の市民2,000人を対象に実施したものであり、有効回収数は744、有効回収率は37.2％となっています。

2 回答者の属性

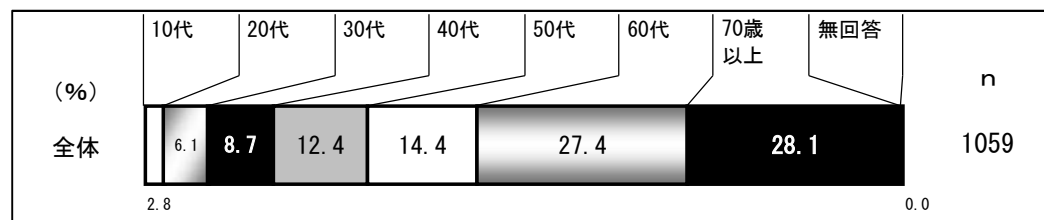
(1) 性別

回答者の性別は、「女性」が55.0%、「男性」が44.8%となっています。



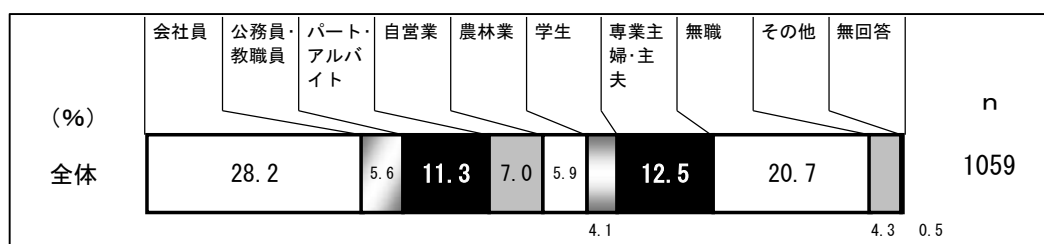
(2) 年齢

回答者の年齢は、「70歳以上」(28.1%)、「60代」(27.4%)、「50代」(14.4%)、「40代」(12.4%)、「30代」(8.7%)、「20代」(6.1%)、「10代」(2.8%)の順となっています。



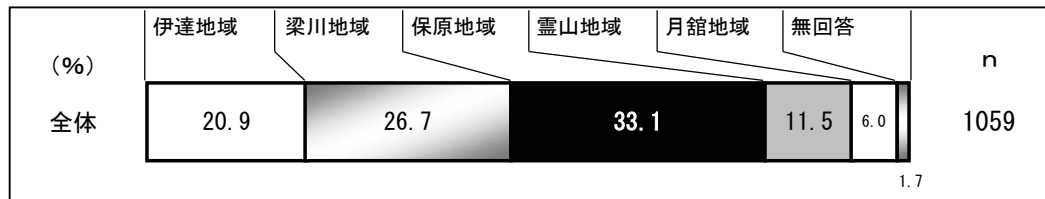
(3) 職業

回答者の職業は、「会社員」(28.2%)、「無職」(20.7%)、「専業主婦・主夫」(12.5%)、「パート・アルバイト」(11.3%)、「自営業」(7.0%)、「農林業」(5.9%)、「公務員・教職員」(5.6%)、「その他」(4.3%)、「学生」(4.1%)の順となっています。



(4) 居住地域

回答者の居住地域は、「保原地域」(33.1%)、「梁川地域」(26.7%)、「伊達地域」(20.9%)、「霊山地域」(11.5%)、「月舘地域」(6.0%)の順となっています。



Ⅱ 調査結果

1 市への愛着度と定住意向などについて

(1) 市への愛着度

問2 あなたは、伊達市に対して「自分のまち」としての愛着をどの程度感じていますか。
(1つに○印)



● “愛着を感じている” が 78.2%、“愛着を感じていない” が 5.4%。

市民の市に対する愛着度を把握するため、「愛着を感じている」、「どちらかといえば愛着を感じている」、「どちらともいえない」、「どちらかといえば愛着を感じていない」、「愛着を感じていない」の中から1つを選んでもらいました。

その結果、「どちらかといえば愛着を感じている」と答えた人が40.1%で最も多く、次いで「愛着を感じている」と答えた人が38.1%で、これらをあわせた“愛着を感じている”という人が78.2%と8割弱にのぼっています。これに対し、“愛着を感じていない”という人（「どちらかといえば愛着を感じていない」3.7%と「愛着を感じていない」1.7%の合計）は5.4%と5%程度で、市への愛着度は高いといえます。

中学生アンケートの結果（市が好きか）と比較すると、“愛着を感じている（好きだ）”という率は市民が約7ポイント高く、愛着度は市民の方がかなり高い（中学生の方がかなり低い）ことがうかがえます。

属性別で“愛着を感じている”率をみると、性別では、女性が78.2%、男性が78.1%と、ほぼ同様ですが、「愛着を感じている」と明確に肯定した率では、男性（39.9%）が女性（36.3%）を約4ポイント上回り、男性の愛着度がやや高いことがうかがえます。

年齢別では、“愛着を感じている”率が高い順に、70歳以上（82.6%）、10・20代（80.0%）、60代（79.0%）、50代（77.1%）、30代（75.0%）、40代（68.7%）となっており、他の年齢層に比べ、40代で7割に満たず目立って低いこと、10・20代で8割と高く、若年層においても愛着度が高いことなどの特徴があげられます。

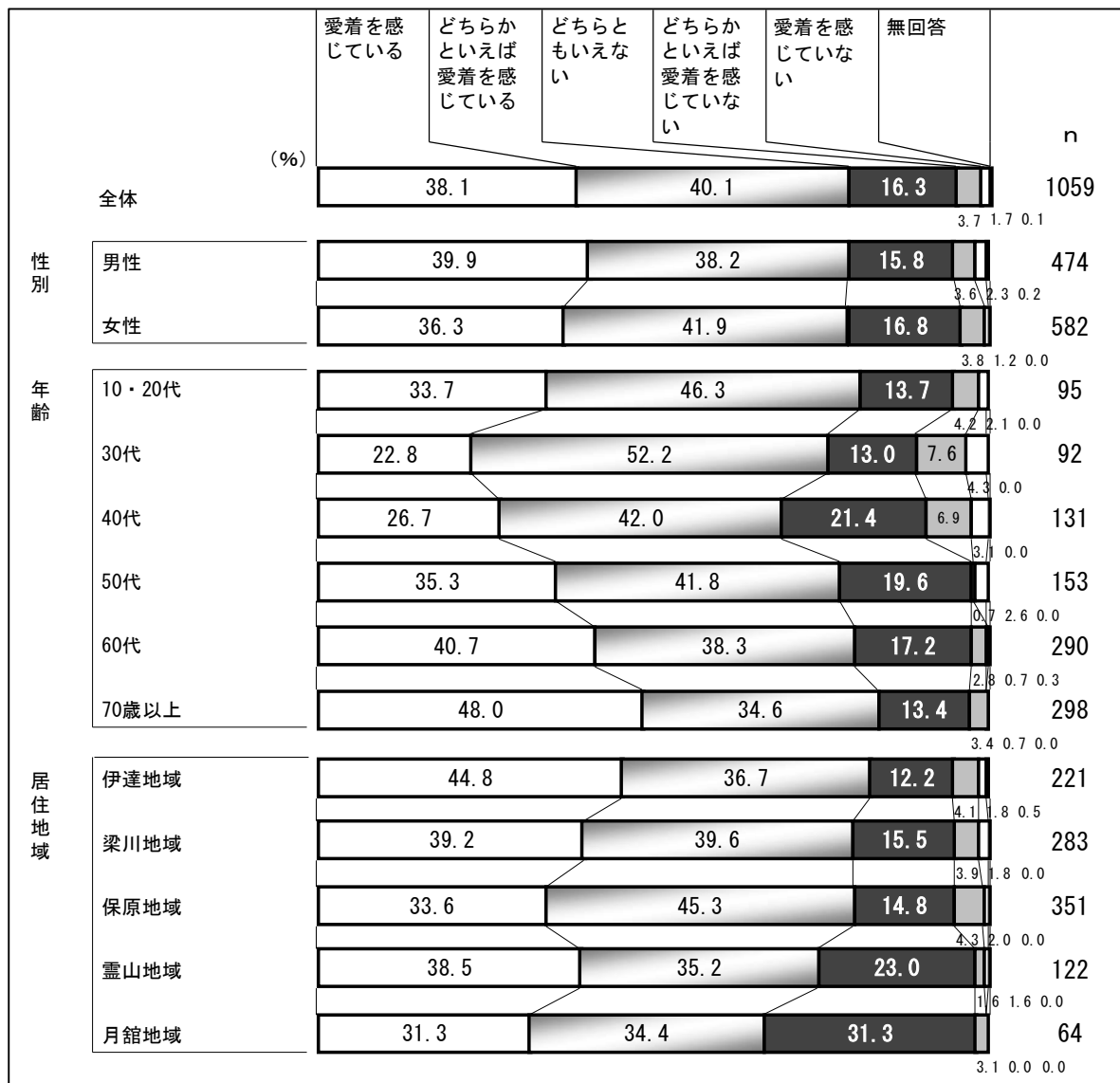
居住地域別では、“愛着を感じている”率は伊達地域（81.5%）で最も高く、次いで保原地域（78.9%）、梁川地域（78.8%）、霊山地域（73.7%）、月舘地域（65.7%）の順となっており、伊達地域・保原地域・梁川地域と霊山地域・月舘地域ではかなりの差がみられます。

これらのことから、女性や40代、霊山地域・月舘地域の愛着度をいかに高めていくか、また、10・20代の高い愛着度をいかに維持していくかが今後の課題の一つとしてあげられます。[図表1参照]

【比較】

中学生アンケート “好きだ” が 71.1%、“好きではない” が 4.9%。

図表 1 市への愛着度（全体・性別・年齢・居住地域）



(2) 今後の定住意向

問3 あなたは、これからも伊達市に住み続けたいと思いますか。



● “住み続けたい” が 79.6%、“住みたくない” が 4.4%。

市民の今後の定住意向を探るため、「住み続けたい」、「どちらかといえば住み続けたい」、「どちらともいえない」、「どちらかといえば住みたくない」、「住みたくない」の中から1つを選んでもらいました。

その結果、「住み続けたい」と答えた人が 55.5%で最も多く、次いで「どちらかといえば住み続けたい」と答えた人が 24.1%で、これらをあわせた“住み続けたい”という人が 79.6%と約8割にのぼっています。これに対し、“住みたくない”という人（「どちらかといえば住みたくない」3.1%と「住みたくない」1.3%の合計）は 4.4%と5%にも満たず、問2の「市への愛着度」と同様に定住意向も強いといえます。

中学生アンケートの結果（今後の定住意向）と比較すると、“住み続けたい”という率は市民が約 52 ポイント高く、定住意向は市民の方が特に強い（中学生の方が特に弱い）ことがうかがえます。

属性別で“住み続けたい”率をみると、性別では、男性（81.9%）が女性（77.6%）を約4ポイント上回り、男性の定住意向がやや強いことがうかがえます。

年齢別では、“住み続けたい”率が高い順に、70歳以上（87.6%）、60代（84.9%）、30代（79.4%）、40代（74.8%）、50代（71.9%）、10・20代（57.9%）となっており、他の年齢層に比べ、愛着度が2番目に高かった10・20代で6割に満たず目立って低いこと、40代・50代で7割強程度と比較的低いことなどの特徴があげられます。

居住地域別では、“住み続けたい”率は梁川地域（81.6%）で最も高く、次いでほぼ同率で保原地域（81.5%）、伊達地域（79.6%）、霊山地域（74.6%）、月舘地域（67.2%）の順となっており、問2の「市への愛着度」の傾向と同様に、梁川地域・保原地域・伊達地域と霊山地域・月舘地域ではかなりの差がみられます。

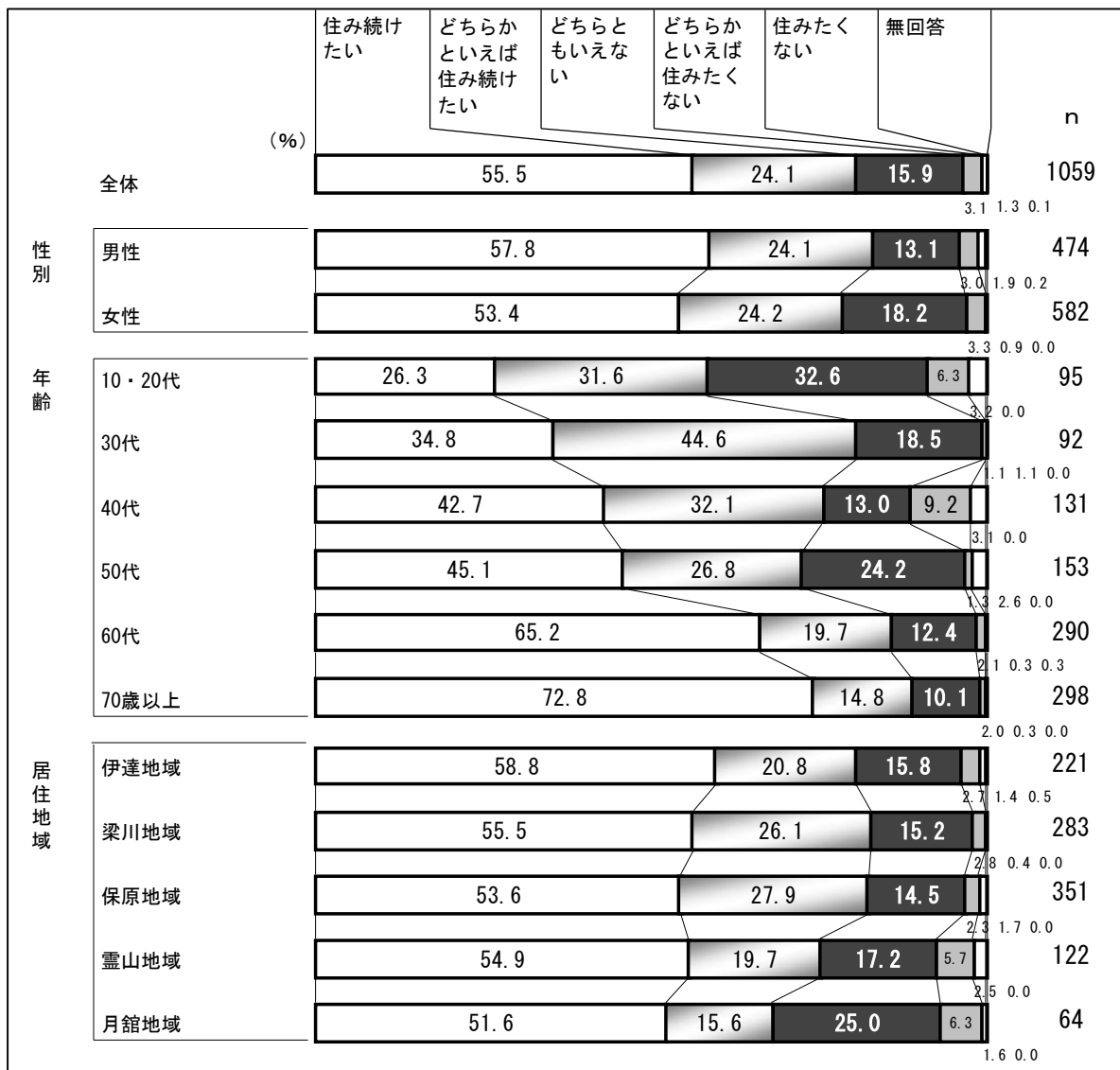
これらのことから、愛着度は高いが定住意向は弱い若年層をはじめ、女性、中年世代、霊山地域・月舘地域の定住意向を強める環境・条件づくりをいかに進めていくかが課題の一つとしてあげられます。[図表2参照]

【比較】

中学生アンケート

“住み続けたい” が 27.7%、“住みたくない” が 18.4%。

図表 2 今後の定住意向（全体・性別・年齢・居住地域）



(3) 市の魅力

問4 あなたは、伊達市に備わっている魅力は何だと思いますか。【複数回答】



- 「豊かな自然」が他を引き離して第1位。次いで「おいしい食べ物」、「買物の利便性」、「住みやすい住宅地」、「道路・交通の利便性」、「人情味や地域の連帯感」の順。

市の魅力については、「豊かな自然」(55.2%)が他を引き離して第1位、「おいしい食べ物」(28.6%)が第2位、「買物の利便性」(23.2%)が第3位、続いて「住みやすい住宅地」(20.8%)、「道路・交通の利便性」(19.7%)、「人情味や地域の連帯感」(18.5%)の順となっており、自然の豊かさをはじめ、食べ物や利便性、住宅地、人情味を市の魅力と感じている人が多くなっています。

これら以外では、「上・下水道やごみ処理施設など生活環境施設」(11.8%)、「歴史文化や伝統芸能」(9.4%)、「子育て・教育環境」(8.1%)などの順となっています。

令和2年度アンケートの結果(市の住みよい理由・選択肢はやや異なる)と比較すると、今回の選択肢にはない「仕事や家族の都合」を除くと、上位5位は同様であり、大きな変化はみられません。

中学生アンケートの結果(市のよいところ)と比較すると、「豊かな自然」が第1位、「おいしい食べ物」が第2位あるいは第3位であることに変わりはありませんが、これら以外をみると、市民では利便性、中学生では人のやさしさや歴史的なものがあげられており、やや違いがみられます。

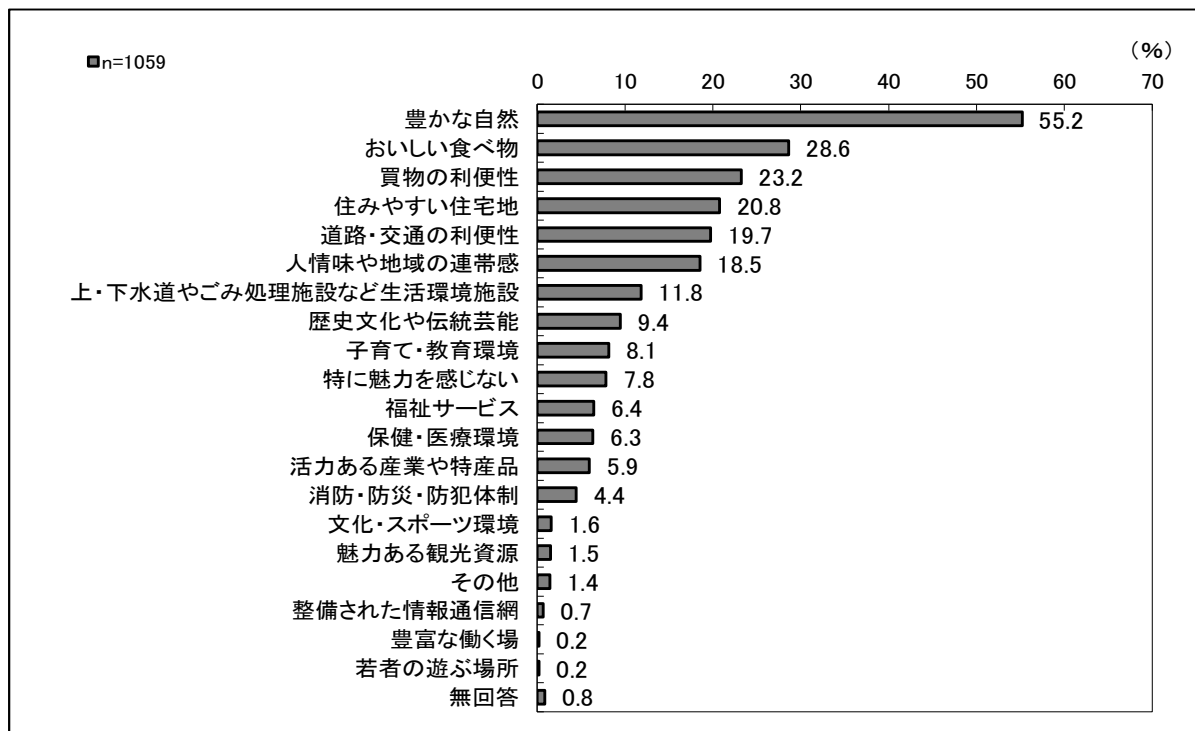
属性別でみると、ほとんどの属性で市全体と同様に「豊かな自然」が第1位、「おいしい食べ物」が第2位となっていますが、伊達地域では「道路・交通の利便性」(39.4%)が第1位となっているほか、40代では「住みやすい住宅地」(25.2%)、70歳以上では「買物の利便性」(28.5%)、保原地域では「買物の利便性」(38.5%)、霊山地域・月舘地域では「人情味や地域の連帯感」(26.2%・39.1%)が第2位となっており、特に地域によって若干の違いがみられます。[図表3・4参照]

【比較】

令和2年度アンケート 「豊かな自然」、「買物の利便性」、「道路・交通の利便性」、「仕事や家族の都合」、「おいしい食べ物」の順。

中学生アンケート 「豊かな自然」、「人のやさしさ」、「おいしい食べ物」、「住みやすい住宅地」、「歴史的なもの」の順。

図表3 市の魅力（全体／複数回答）



図表4 市の魅力（全体・性別・年齢・居住地域－上位3位／複数回答）

（単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全体		豊かな自然 55.2	おいしい食べ物 28.6	買物の利便性 23.2
性別	男性	豊かな自然 55.7	おいしい食べ物 23.6	道路・交通の利便性 21.9
	女性	豊かな自然 55.0	おいしい食べ物 32.6	買物の利便性 26.8
年齢	10・20代	豊かな自然 62.1	おいしい食べ物 35.8	住みやすい住宅地 28.4
	30代	豊かな自然 55.4	おいしい食べ物 37.0	子育て・教育環境 29.3
	40代	豊かな自然 58.8	住みやすい住宅地 25.2	おいしい食べ物 24.4
	50代	豊かな自然 55.6	おいしい食べ物 22.9	住みやすい住宅地 22.2
	60代	豊かな自然 53.4	おいしい食べ物 29.0	買物の利便性 23.1
	70歳以上	豊かな自然 53.0	買物の利便性 28.5	おいしい食べ物 28.2
居住地域	伊達地域	道路・交通の利便性 39.4	豊かな自然 38.9	買物の利便性 31.7
	梁川地域	豊かな自然 64.3	おいしい食べ物 36.4	人情味や地域の連帯感 21.2
	保原地域	豊かな自然 47.9	買物の利便性 38.5	住みやすい住宅地 26.5
	霊山地域	豊かな自然 73.8	人情味や地域の連帯感 26.2	おいしい食べ物 25.4
	月舘地域	豊かな自然 73.4	人情味や地域の連帯感 39.1	おいしい食べ物 23.4

(4) 市に不足していること

問5 あなたは、伊達市に不足していることは何だと思いますか。【複数回答】



- 「豊富な働く場」が第1位。次いで「若者の遊ぶ場所」、「魅力ある観光資源」、「買物の利便性」、「道路・交通の利便性」の順。

市に不足していることについては、「豊富な働く場」(38.6%)が第1位、「若者の遊ぶ場所」(31.0%)が第2位、「魅力ある観光資源」(29.2%)が第3位で、これらは他をやや引き離して代表的な回答となっており、就労の場をはじめ、若者の遊び場や観光資源が不足していると考えの人が多くなっています。

これら以外では、「買物の利便性」(21.9%)、「道路・交通の利便性」(21.2%)、「活力ある産業や特産品」(20.2%)、「保健・医療環境」(12.7%)、「子育て・教育環境」(12.6%)などの順となっています。

令和2年度アンケートの結果(市の住みにくい理由・選択肢はやや異なる)と比較すると、令和2年度の選択肢にはなかった「魅力ある観光資源」を除くと、上位5位の項目は同じですが、令和2年度では利便性、今回は就労の場や若者の遊び場が上位回答となっており、やや違いがみられます。

中学生アンケートの結果(市に不足しているところ)と比較すると、市民・中学生ともに若者の遊び場や観光資源が上位回答となっていますが、市民では就労の場、中学生では若者の遊び場の不足を指摘する人が特に多くなっています。

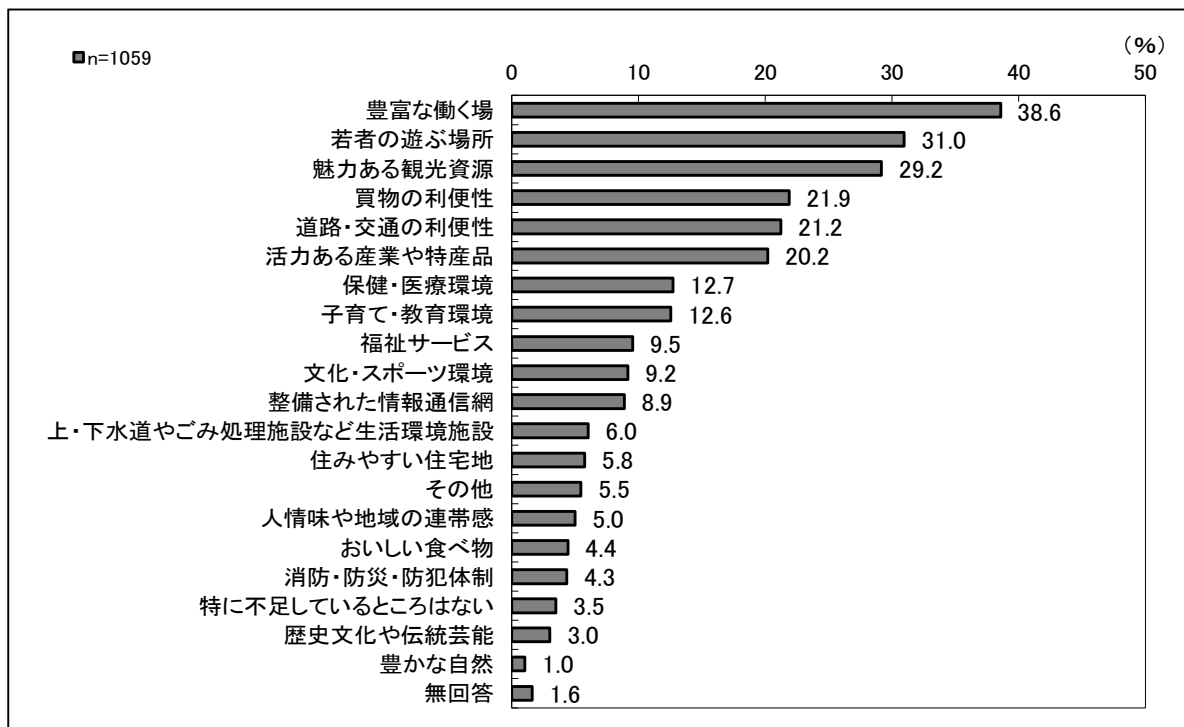
属性別でみると、ほとんどの属性で市全体と同様に「豊富な働く場」が第1位となっていますが、10・20代～40代及び伊達地域では「若者の遊ぶ場所」(66.3%・54.3%・42.0%・37.1%)、月舘地域では「買物の利便性」(39.1%)が第1位となっており、年齢・地域によって最も不足していると考えるものに違いがみられます。[図表5・6参照]

【比較】

令和2年度アンケート 「道路・交通の利便性」、「買物などの利便性」、「豊富な働く場」、「若者の遊ぶ場所」、「活力ある産業や特産品」の順。

中学生アンケート 「若者の遊ぶ場所」、「多くの人が訪れる場所」、「文化・スポーツ施設」、「インターネットの利便性」、「買物の利便性」の順。

図表5 市に不足していること（全体／複数回答）



図表6 市に不足していること（全体・性別・年齢・居住地域－上位3位／複数回答）

（単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全体		豊富な働く場 38.6	若者の遊ぶ場所 31.0	魅力ある観光資源 29.2
性別	男性	豊富な働く場 42.4	若者の遊ぶ場所 30.2	魅力ある観光資源 27.2
	女性	豊富な働く場 35.7	若者の遊ぶ場所 31.8	魅力ある観光資源 30.9
年齢	10・20代	若者の遊ぶ場所 66.3	豊富な働く場 37.9	道路・交通の利便性 29.5
	30代	若者の遊ぶ場所 54.3	買物の利便性 27.2	魅力ある観光資源 25.0
	40代	若者の遊ぶ場所 42.0	豊富な働く場 37.4	買物の利便性 33.6
	50代	豊富な働く場 38.6	魅力ある観光資源 37.3	若者の遊ぶ場所 26.1
	60代	豊富な働く場 42.1	魅力ある観光資源 26.9	若者の遊ぶ場所 22.8
	70歳以上	豊富な働く場 41.3	魅力ある観光資源 28.9	活力ある産業や特産品 23.5
居住地域	伊達地域	若者の遊ぶ場所 37.1	魅力ある観光資源 35.3	豊富な働く場 30.3
	梁川地域	豊富な働く場 44.9	若者の遊ぶ場所 29.7	買物の利便性 27.9
	保原地域	豊富な働く場 36.2	魅力ある観光資源 33.9	若者の遊ぶ場所 30.5
	霊山地域	豊富な働く場 49.2	買物の利便性 39.3	道路・交通の利便性 38.5
	月舘地域	買物の利便性 39.1	道路・交通の利便性 34.4	豊富な働く場 32.8

(5) 市の特徴と課題がまちづくりに反映されているか

問6 あなたは、市全体や各地域の特徴と課題が伊達市のまちづくりに反映されていると思いますか。



● “そう思う” が 25.9%、“そう思わない” が 52.6%。

市全体や各地域の特徴と課題がまちづくりに反映されているかどうかについて、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」、「どちらかといえばそう思わない」、「そう思わない」、「わからない」の中から1つを選んでもらいました。

その結果、「そう思う」(2.9%)と「どちらかといえばそう思う」(23.0%)を合わせた“そう思う”という人は25.9%とおおよそ4人に1人の割合となっています。これに対し、“そう思わない”という人(「そう思わない」18.2%と「どちらかといえばそう思わない」34.4%の合計)は52.6%と半数強となっています。

令和2年度アンケートの結果と比較すると、“そう思う”という率は大きく変わりませんが、“そう思わない”という率は約18ポイント上昇し、市全体や各地域の特徴と課題を反映したまちづくりに関する評価は厳しくなっています(令和2年度は「わからない」と「無回答」が37.1%(今回は21.5%)と多く、これら回答を保留した層の一定数が、今回は“そう思わない”と回答したことが考えられます)。

属性別で“そう思わない”率をみると、性別では、男性(60.6%)が女性(46.1%)を約15ポイント上回り、男性の評価が特に厳しいものとなっています。

年齢別では、“そう思わない”率が高い順に、50代(60.8%)、60代(59.4%)、70歳以上(51.3%)、40代(49.6%)、30代(44.6%)、10・20代(34.8%)となっており、他の年齢層に比べ、50代と60代の評価が厳しくなっています。

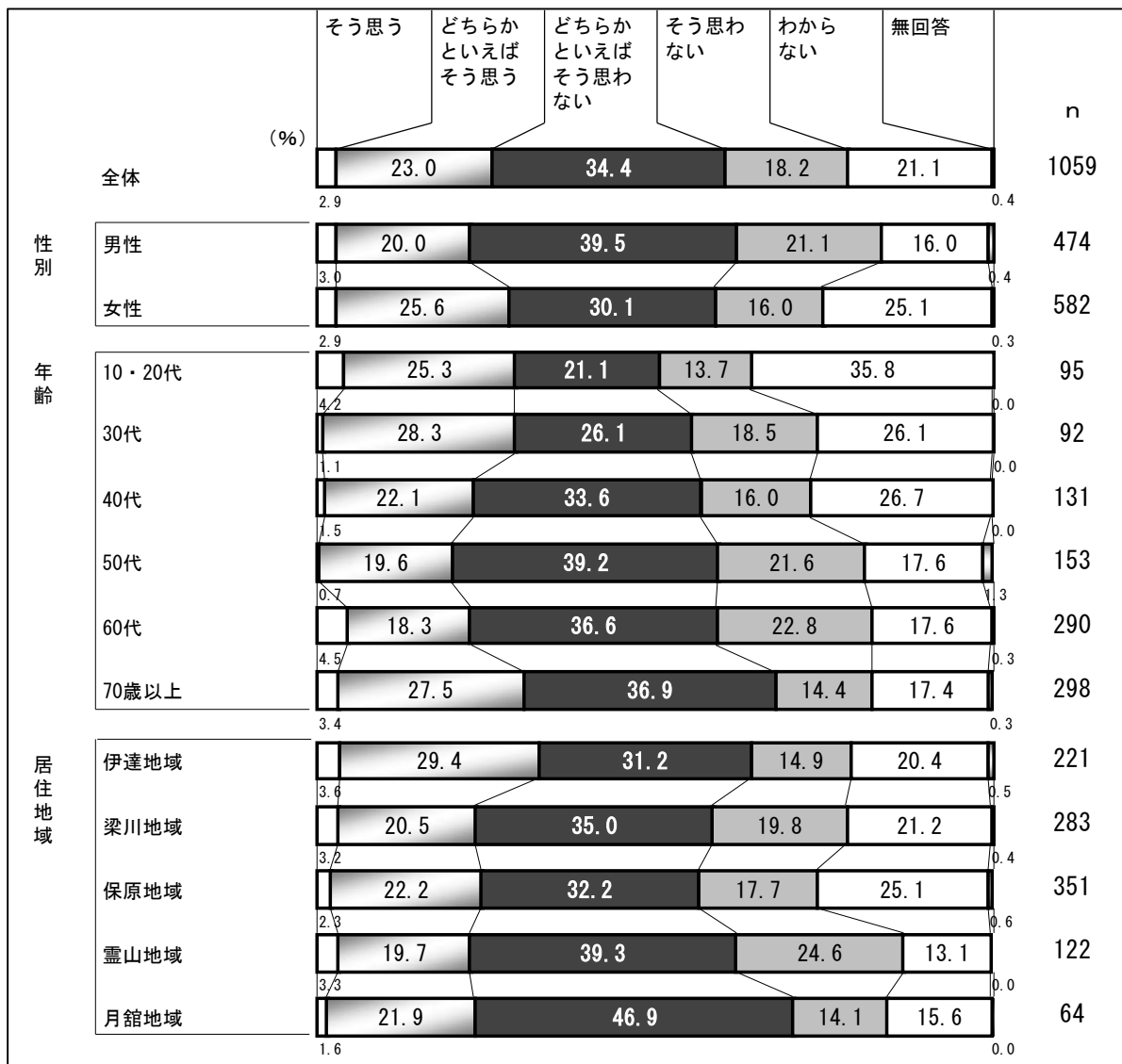
居住地域別では、“そう思わない”率は霊山地域(63.9%)で最も高く、次いで月舘地域(61.0%)、梁川地域(54.8%)、保原地域(49.9%)、伊達地域(46.1%)の順となっており、問2の「市への愛着度」や問3の「今後の定住意向」で比較的低い(弱い)傾向にあった霊山地域と月舘地域の2地域の評価が特に厳しくなっています。

[図表7参照]

【比較】

令和2年度アンケート “そう思う” が 27.9%、“そう思わない” が 35.0%。

図表7 市の特徴と課題がまちづくりに反映されているか（全体・性別・年齢・居住地域）



2 市の現状と今後の取り組みについて

(1) 市の各環境に関する満足度

問7 伊達市では、これまで伊達市第2次総合計画（平成27年度～令和4年度）に基づき、各分野にわたる様々な取り組みを進めてきました。以下の項目についての現状の満足度と、今後の重要度をおたずねします。
(1) あなたは、以下の項目について、現在どの程度満足していますか。



- 満足度が最も高いのは「水道の整備状況」。次いで「消防・救急体制」、「広報・広聴活動に関する取り組み」の順。
- 満足度が最も低いのは「商業振興に関する取り組み」。次いで「雇用対策」、「公共交通の状況」の順。

市の各環境について、市民がどの程度満足しているかを把握するため、伊達市第2次総合計画に基づき、5分野40項目を設定し、項目ごとに「満足している」、「どちらかといえば満足している」、「どちらともいえない」、「どちらかといえば不満である」、「不満である」の5段階で評価してもらい、加重平均値による数量化〔後述参照〕で評価点（満足度：最高点10点、中間点0点、最低点-10点）を算出しました。

その結果、満足度が最も高いのは「水道の整備状況」（3.17点）で、次いで第2位が「消防・救急体制」（2.86点）、第3位が「広報・広聴活動に関する取り組み」（2.25点）、続いて「ごみ処理体制」（2.21点）、「保健サービス提供体制」（1.56点）などの順となっています。

一方、満足度が最も低いのは「商業振興に関する取り組み」（-1.59点）で、次いで第2位が「雇用対策」（-1.56点）、第3位が「公共交通の状況」（-1.36点）、続いて「観光振興に関する取り組み」（-1.12点）、「移住・定住促進対策」（-0.90点）などの順となっています。

全体的にみると、市民協働・生活安全・行財政分野の中の生活安全と広報・広聴活動に関する項目、子育て・教育・文化分野の項目全般、保健・医療・福祉分野の項目全般、生活環境・生活基盤分野の中の水道・下水道・ごみ処理に関する項目の満足度が高く、産業分野の項目全般、生活環境・生活基盤分野の中の公共交通・移住・定住・情報環境に関する項目の満足度が低くなっており、満足度がプラス評価の項目が24項目、マイナス評価の項目が15項目、中間点が1項目となっています。〔図表8参照〕

また、これを居住地域別でみると、次のとおりとなっています。

伊達地域

満足度の上位3項目は、第1位が「水道の整備状況」(3.44点)、第2位が「消防・救急体制」(2.51点)、第3位が「ごみ処理体制」(2.15点)となっています。

一方、下位3項目は、第1位が「商業振興に関する取り組み」(-1.35点)、第2位が「観光振興に関する取り組み」(-1.33点)、第3位が「雇用対策」(-1.32点)となっています。

設定した40項目のうち、プラス評価の項目が25項目、マイナス評価の項目が15項目でした。[図表9参照]

梁川地域

満足度の上位3項目は、第1位が「水道の整備状況」(3.02点)、第2位が「消防・救急体制」(2.73点)、第3位が「広報・広聴活動に関する取り組み」(2.52点)となっています。

一方、下位3項目は、第1位が「雇用対策」(-1.90点)、第2位が「商業振興に関する取り組み」(-1.83点)、第3位が「公共交通の状況」(-1.54点)となっています。

設定した40項目のうち、プラス評価の項目が22項目、マイナス評価の項目が18項目でした。[図表9参照]

保原地域

満足度の上位3項目は、第1位が「水道の整備状況」(3.11点)、第2位が「消防・救急体制」(2.91点)、第3位が「ごみ処理体制」(2.06点)となっています。

一方、下位3項目は、第1位が「雇用対策」(-1.52点)、第2位が「商業振興に関する取り組み」(-1.38点)、第3位が「観光振興に関する取り組み」(-1.15点)となっています。

設定した40項目のうち、プラス評価の項目が27項目、マイナス評価の項目が13項目でした。[図表9参照]

霊山地域

満足度の上位3項目は、第1位が「水道の整備状況」(3.41点)、第2位が「消防・救急体制」(2.87点)、第3位が「広報・広聴活動に関する取り組み」(2.76点)となっています。

一方、下位3項目は、第1位が「公共交通の状況」(-2.78点)、第2位が「商業振興に関する取り組み」(-2.41点)、第3位が「雇用対策」(-1.99点)となっています。

設定した40項目のうち、プラス評価の項目が20項目、マイナス評価の項目が19項目、中間点が1項目でした。[図表9参照]

月館地域

満足度の上位3項目は、第1位が「消防・救急体制」(3.49点)、第2位が「ごみ処理体制」(3.41点)、第3位が「水道の整備状況」(2.86点)となっています。

一方、下位3項目は、第1位が「公共交通の状況」(-2.30点)、第2位が「商業振興に関する取り組み」(-1.53点)、第3位が「移住・定住促進対策」(-1.51点)となっています。

設定した40項目のうち、プラス評価の項目が23項目、マイナス評価の項目が16項目、中間点が1項目でした。[図表9参照]

※加重平均値の算出方法

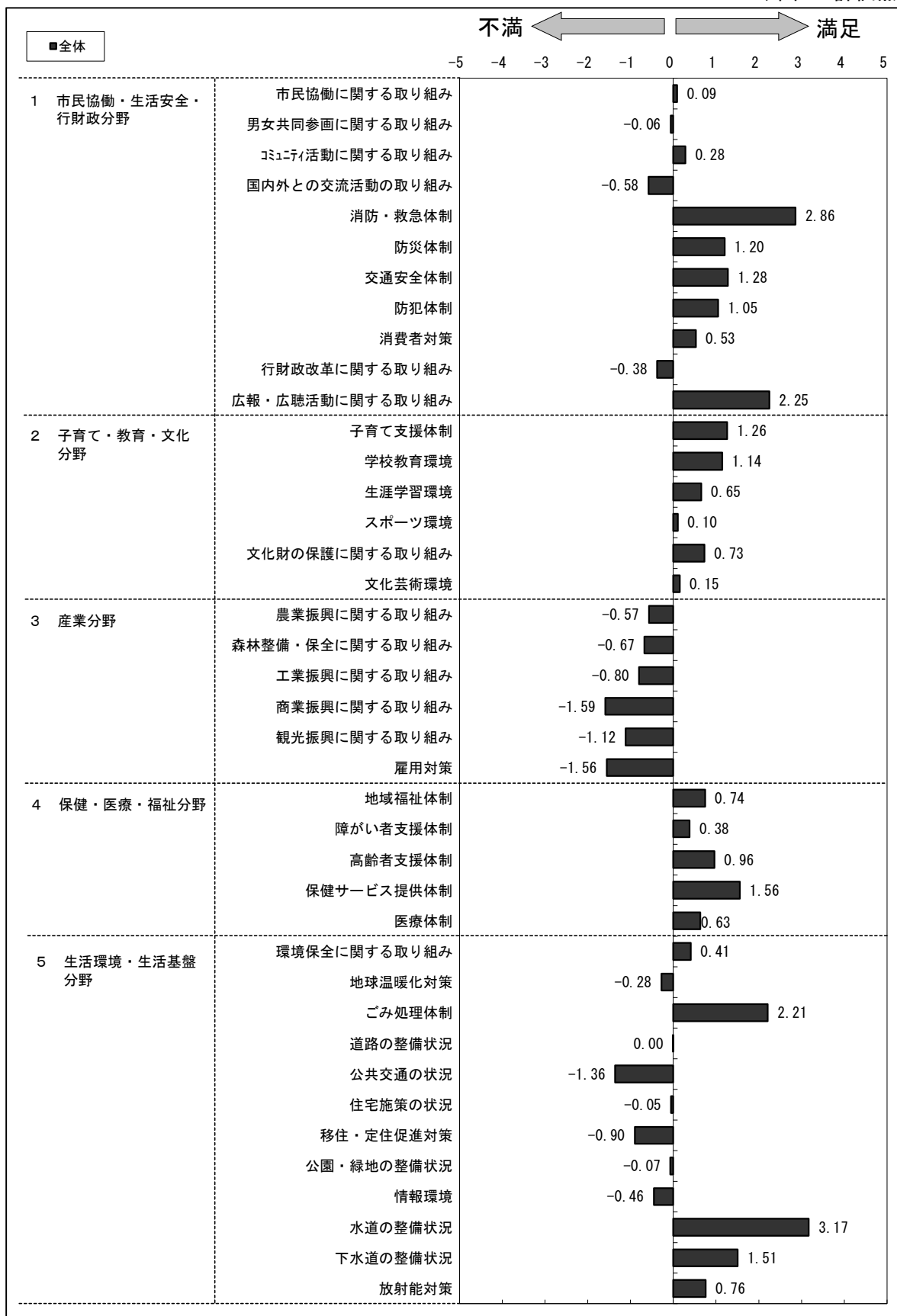
5段階の評価にそれぞれ点数を与え、評価点(満足度)を算出する。

$$\text{評価点} = \frac{\begin{array}{l} \left(\begin{array}{l} \text{「満足している」の回答者数} \times 10 \text{ 点} \\ + \\ \text{「どちらかといえば満足している」の回答者数} \times 5 \text{ 点} \\ + \\ \text{「どちらともいえない」の回答者数} \times 0 \text{ 点} \\ + \\ \text{「どちらかといえば不満である」の回答者数} \times -5 \text{ 点} \\ + \\ \text{「不満である」の回答者数} \times -10 \text{ 点} \end{array} \right)}{\left(\begin{array}{l} \text{「満足している」、「どちらかとい} \\ \text{えば満足している」、「どちら} \\ \text{ともいえない」、「どちらかとい} \\ \text{えば不満である」、「不満であ} \\ \text{る」の回答者数} \end{array} \right)}\end{array}}$$

この算出方法により、評価点(満足度)は10点～-10点の間に分布し、中間点の0点を境に、10点に近くなるほど評価は高いと考えられ、逆に-10点に近くなるほど評価が低いと考えられる。

図表 8 市の各環境に関する満足度（全体）

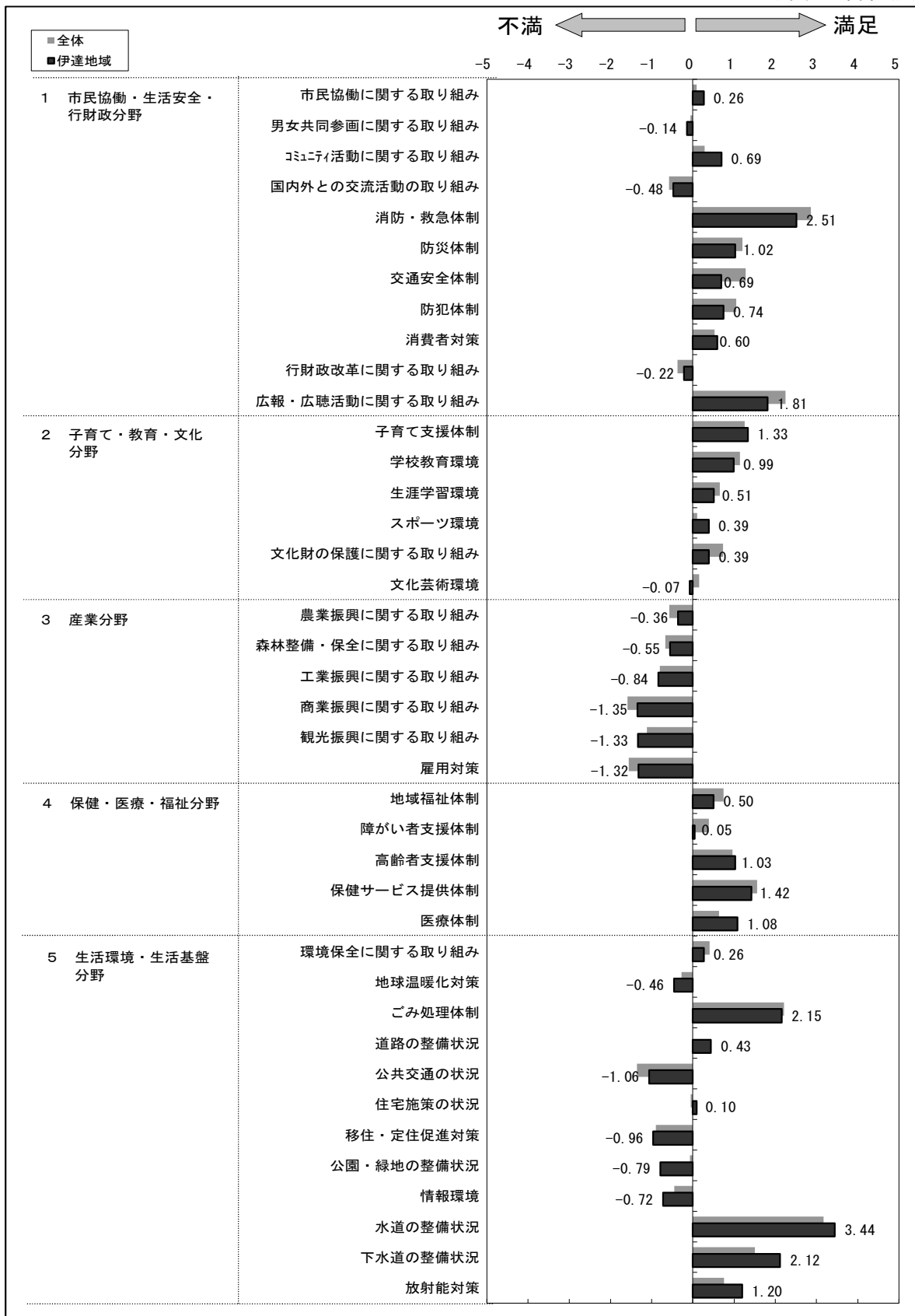
（単位：評価点）



図表 9 市の各環境に関する満足度（全体・居住地域）

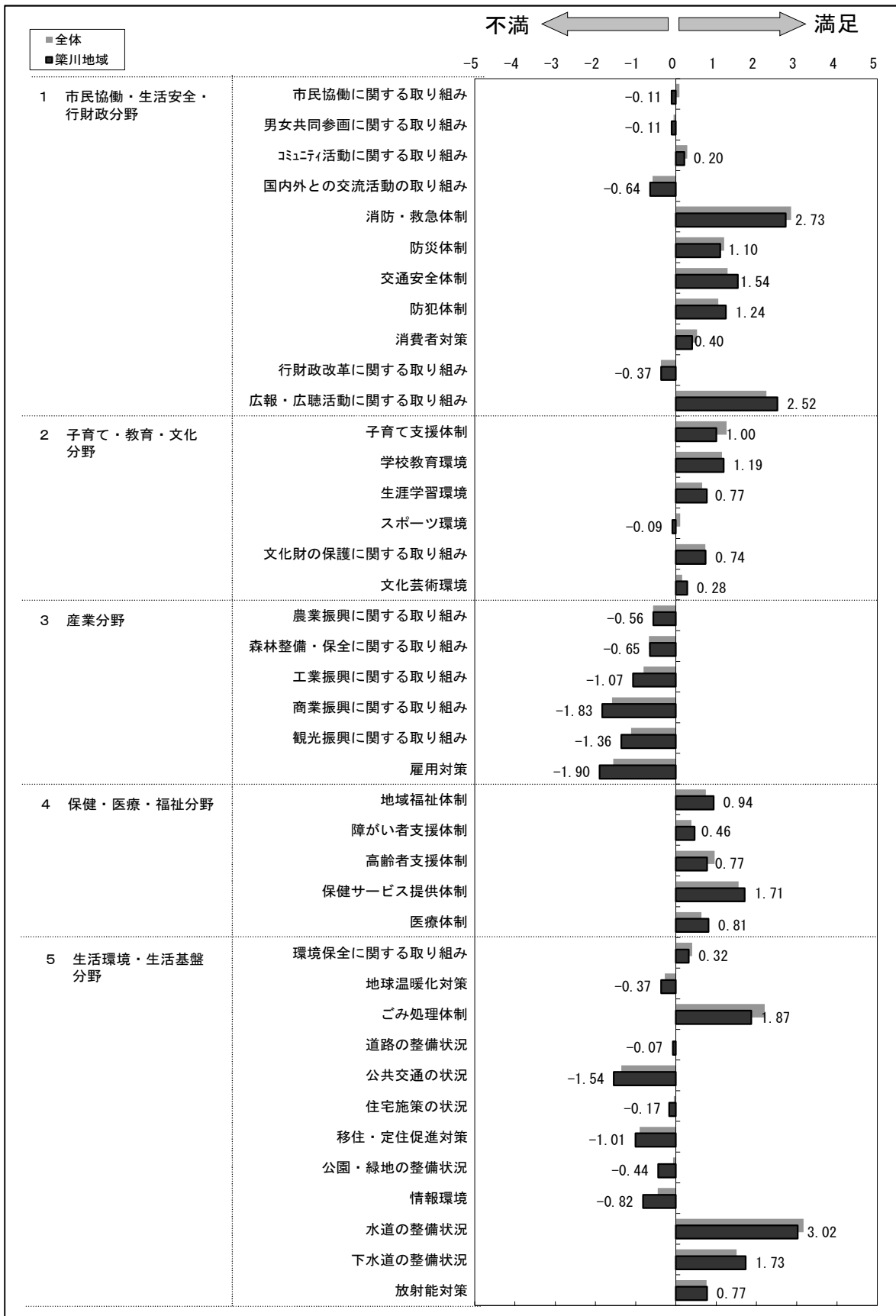
伊達地域

（単位：評価点）



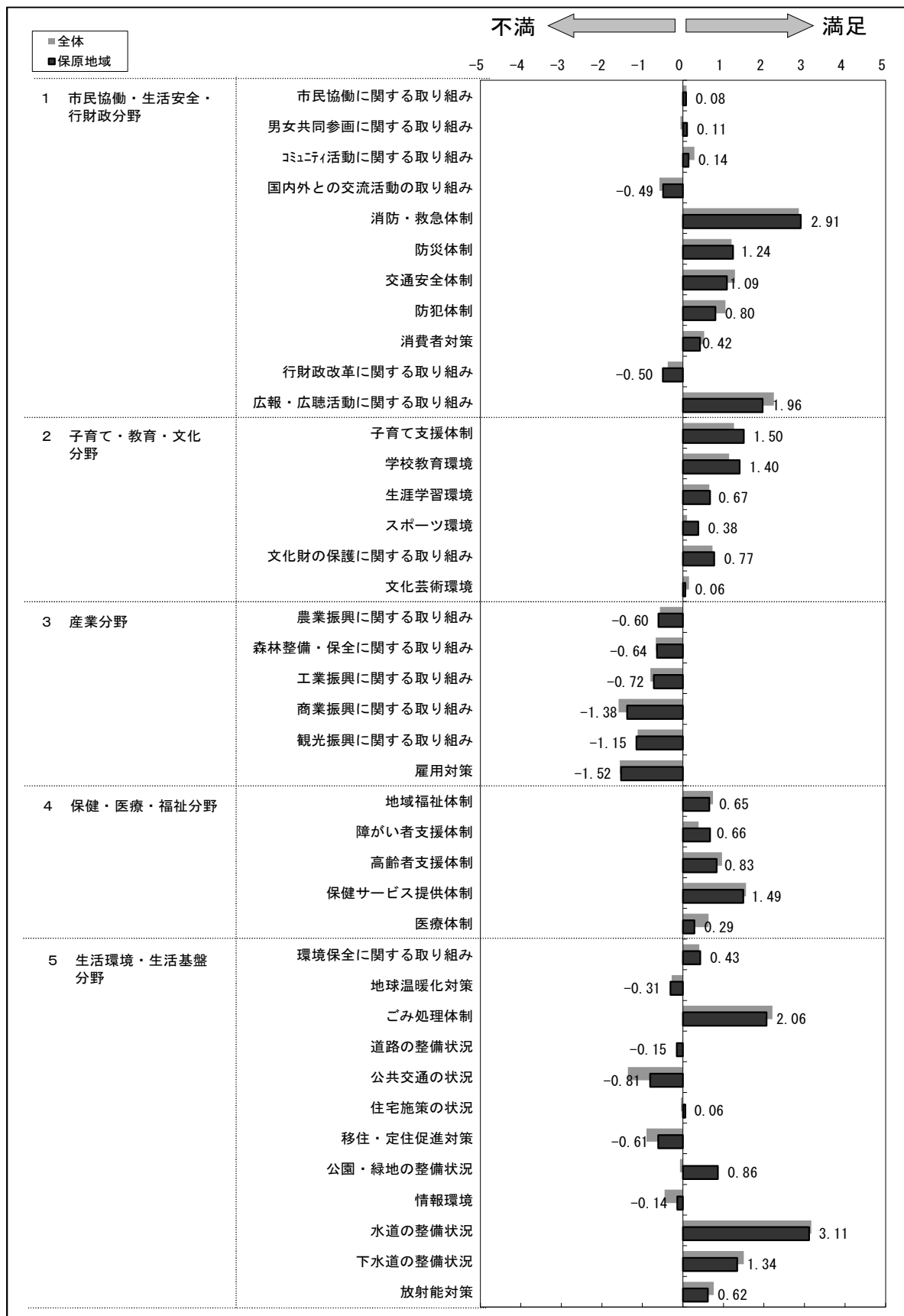
梁川地域

(単位：評価点)



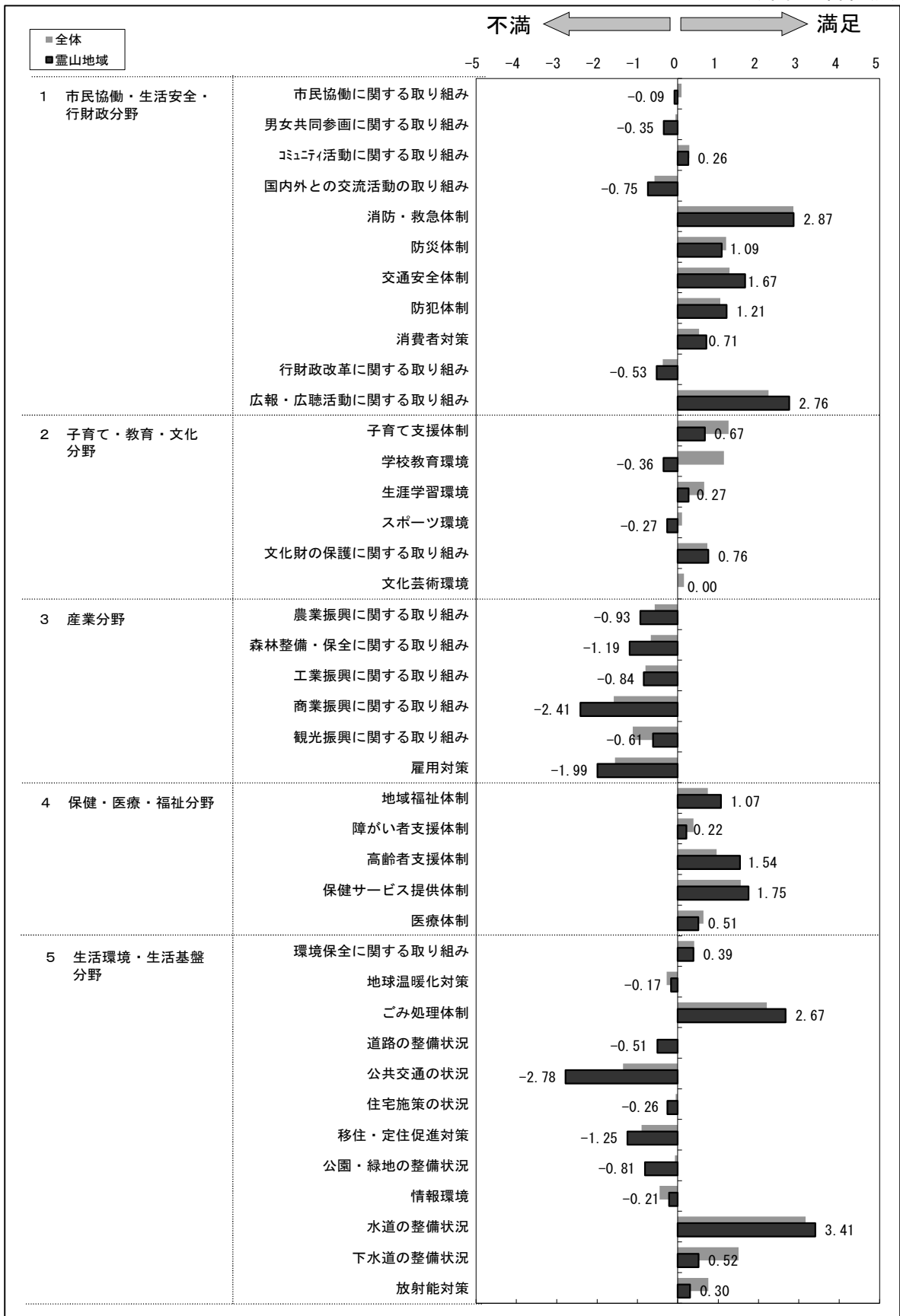
保原地域

(単位：評価点)



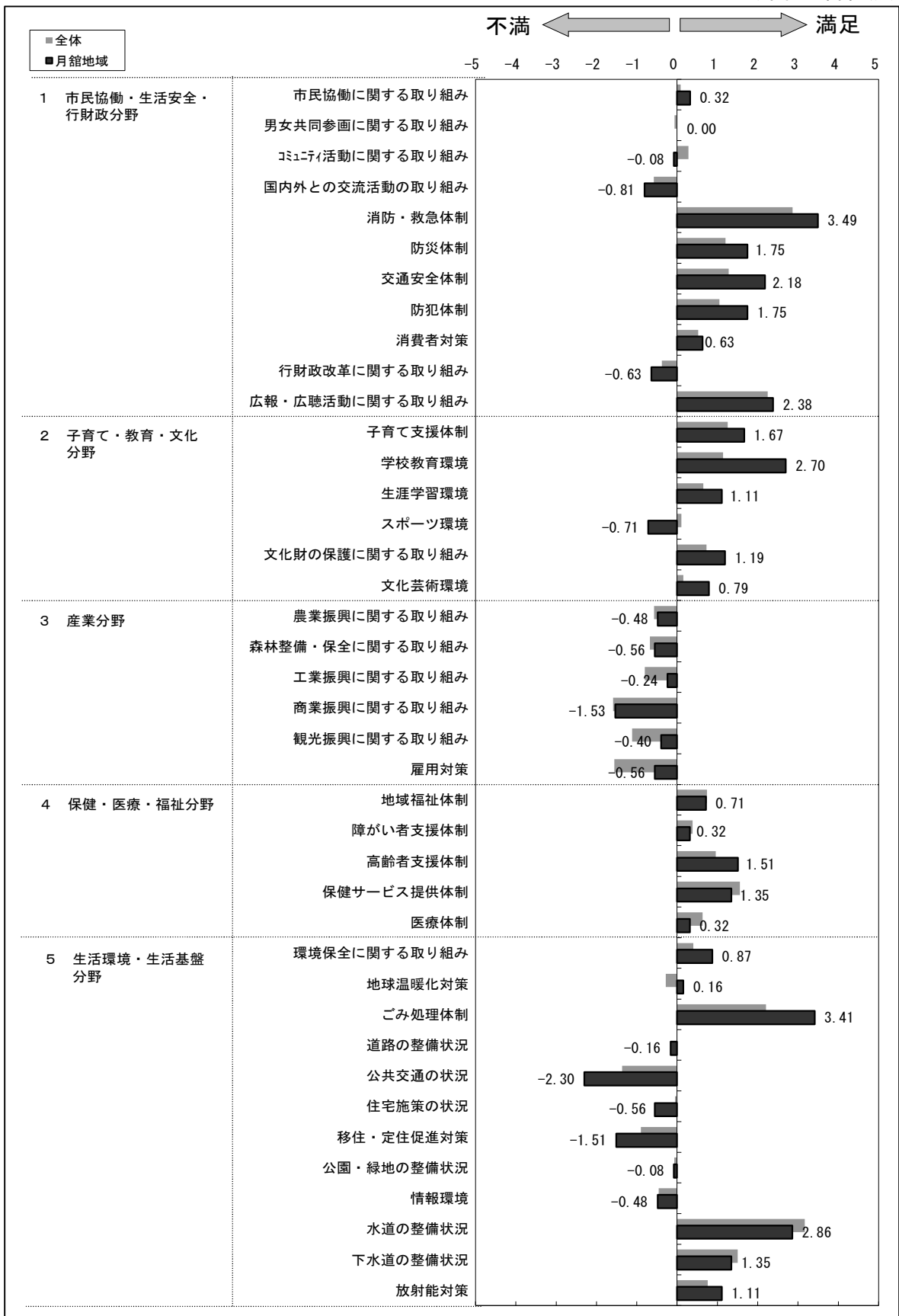
霊山地域

(単位：評価点)



月館地域

(単位：評価点)



(2) 市の各環境に関する重要度

問7 伊達市では、これまで伊達市第2次総合計画（平成27年度～令和4年度）に基づき、各分野にわたる様々な取り組みを進めてきました。以下の項目についての現状の満足度と、今後の重要度をおたずねします。
(2) あなたは、以下の項目について、今後どの程度重視していますか。

- 重要度が最も高いのは「医療体制」。次いで「防災体制」、「消防・救急体制」、「水道の整備状況」、「高齢者支援体制」の順。

市の各環境について、市民がどの程度重視しているかを把握するため、満足度と同じ5分野40項目について、「重視している」、「やや重視している」、「どちらともいえない」、「あまり重視していない」、「重視していない」の5段階で評価してもらい、加重平均値による数量化【後述参照】で評価点（重要度：最高点10点、中間点0点、最低点-10点）を算出しました。

その結果、重要度が最も高いのは「医療体制」（5.97点）で、次いで第2位が「防災体制」（5.46点）、第3位が「消防・救急体制」（5.44点）、続いて「水道の整備状況」（5.42点）、「高齢者支援体制」（5.14点）、「学校教育環境」（4.82点）、「ごみ処理体制」（4.80点）、「子育て支援体制」（4.79点）、「保健サービス提供体制」（4.78点）、「防犯体制」（4.71点）などの順となっています。

これら上位10項目をみると、市民協働・生活安全・行財政分野の項目が3項目（生活安全に関する項目）、保健・医療・福祉分野の項目が3項目、子育て・教育・文化分野の項目が2項目、生活環境・生活基盤分野の項目が2項目（生活環境に関する項目）となっており、“安全・安心な暮らしの確保”と“保健・医療・福祉の充実”をはじめ、“子育て環境・教育環境の充実”、“きれいで快適な生活環境の整備”が重視されていることがうかがえます。【図表10参照】

また、これを居住地域別でみると、次のとおりとなっています。

伊達地域

重要度の上位5項目は、第1位が「医療体制」（6.08点）、第2位が「水道の整備状況」（6.03点）、第3位が「学校教育環境」（5.38点）、第4位が「高齢者支援体制」（5.34点）、第5位が「防災体制」（5.33点）となっています。【図表11参照】

梁川地域

重要度の上位5項目は、第1位が「医療体制」（5.52点）、第2位が「防災体制」（5.51点）、第3位が「消防・救急体制」（5.49点）、第4位が「水道の整備状況」（4.98点）、第5位が「高齢者支援体制」（4.83点）となっています。【図表11参照】

保原地域

重要度の上位5項目は、第1位が「医療体制」(6.18点)、第2位が「防災体制」(5.51点)、第3位が「消防・救急体制」(5.50点)、第4位が「水道の整備状況」(5.41点)、第5位が「高齢者支援体制」(5.18点)となっています。[図表11 参照]

霊山地域

重要度の上位5項目は、第1位が「医療体制」(6.17点)、第2位が「消防・救急体制」(5.57点)、第3位が「防災体制」(5.44点)、第4位が「高齢者支援体制」(5.39点)、第5位が「水道の整備状況」(5.17点)となっています。[図表11 参照]

月舘地域

重要度の上位5項目は、第1位が「医療体制」(5.65点)、第2位が「消防・救急体制」(5.50点)、第3位が「水道の整備状況」(5.40点)、第4位が「ごみ処理体制」(5.33点)、第5位が「防災体制」(5.08点)となっています。[図表11 参照]

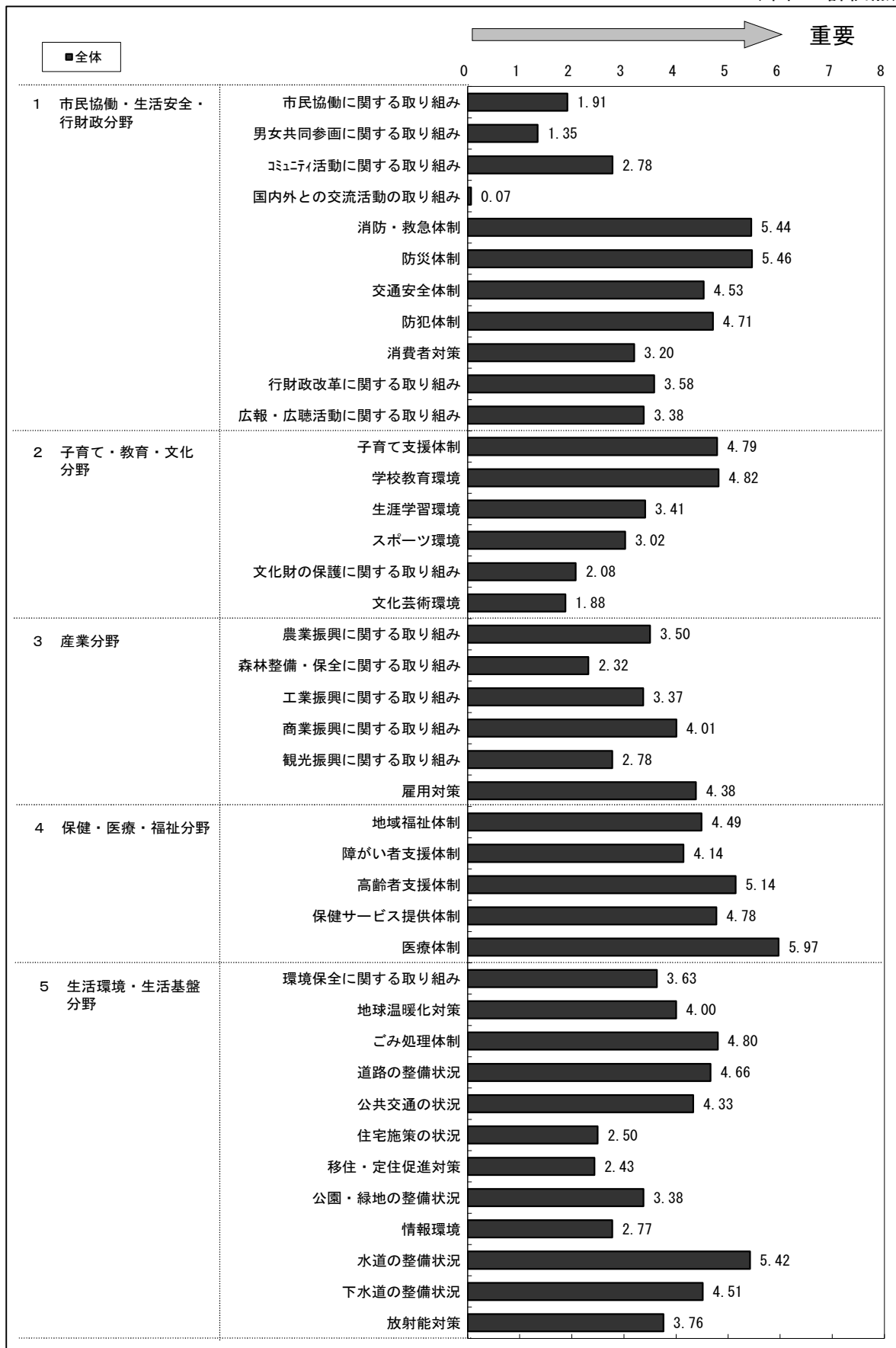
※加重平均値の算出方法

5段階の評価にそれぞれ点数を与え、評価点(重要度)を算出する。

$$\text{評価点} = \frac{\begin{array}{l} \left[\begin{array}{l} \text{「重視している」の回答者数} \times 10 \text{ 点} \\ + \\ \text{「やや重視している」の回答者数} \times 5 \text{ 点} \\ + \\ \text{「どちらともいえない」の回答者数} \times 0 \text{ 点} \\ + \\ \text{「あまり重視していない」の回答者数} \times -5 \text{ 点} \\ + \\ \text{「重視していない」の回答者数} \times -10 \text{ 点} \end{array} \right]}{\begin{array}{l} \left[\begin{array}{l} \text{「重視している」、「やや重視している」、} \\ \text{「どちらともいえない」、「あまり重視していない」、} \\ \text{「重視していない」の回答者数} \end{array} \right]} \end{array}}$$

図表 10 市の各環境に関する重要度（全体）

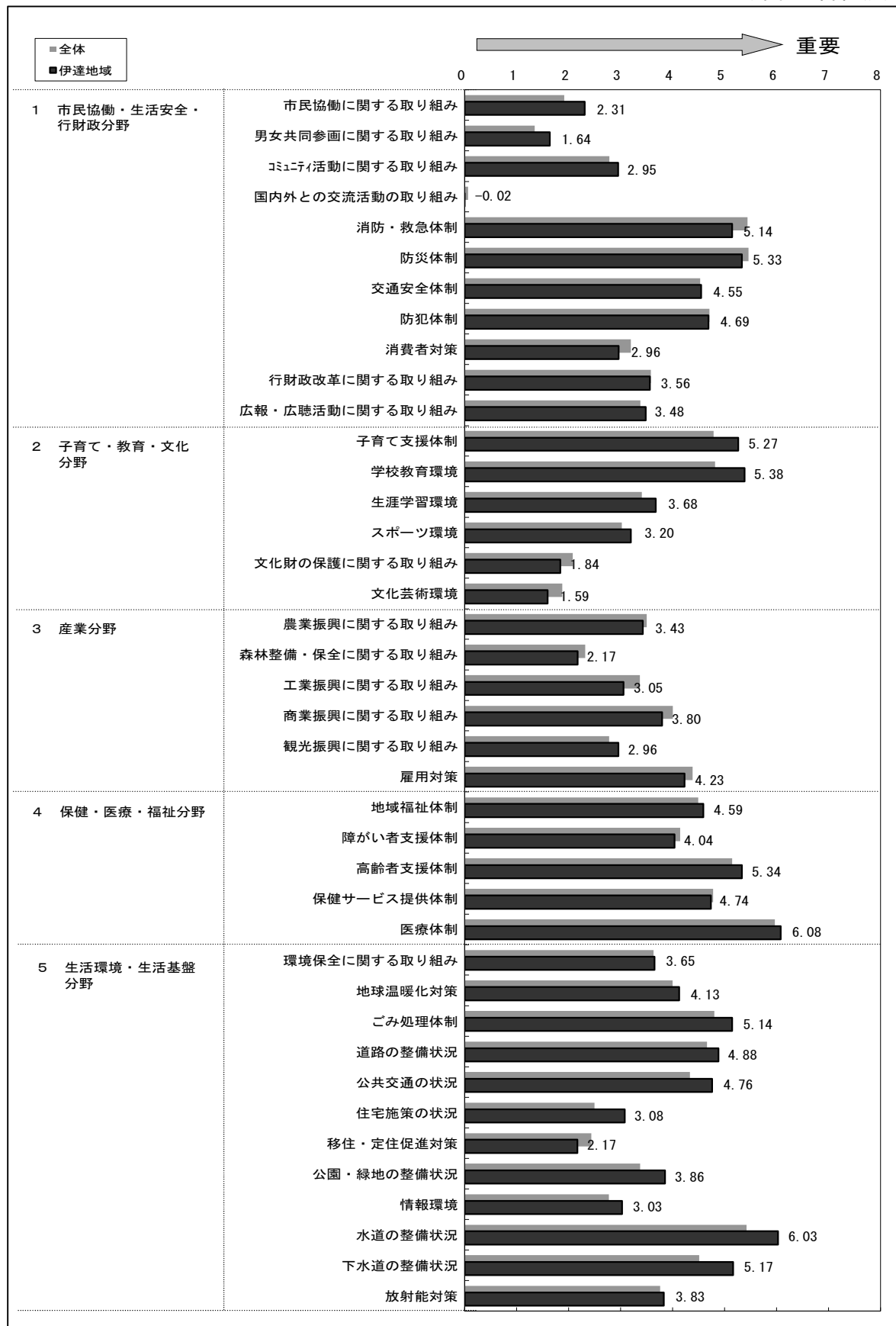
（単位：評価点）



図表 11 市の各環境に関する重要度（全体・居住地域）

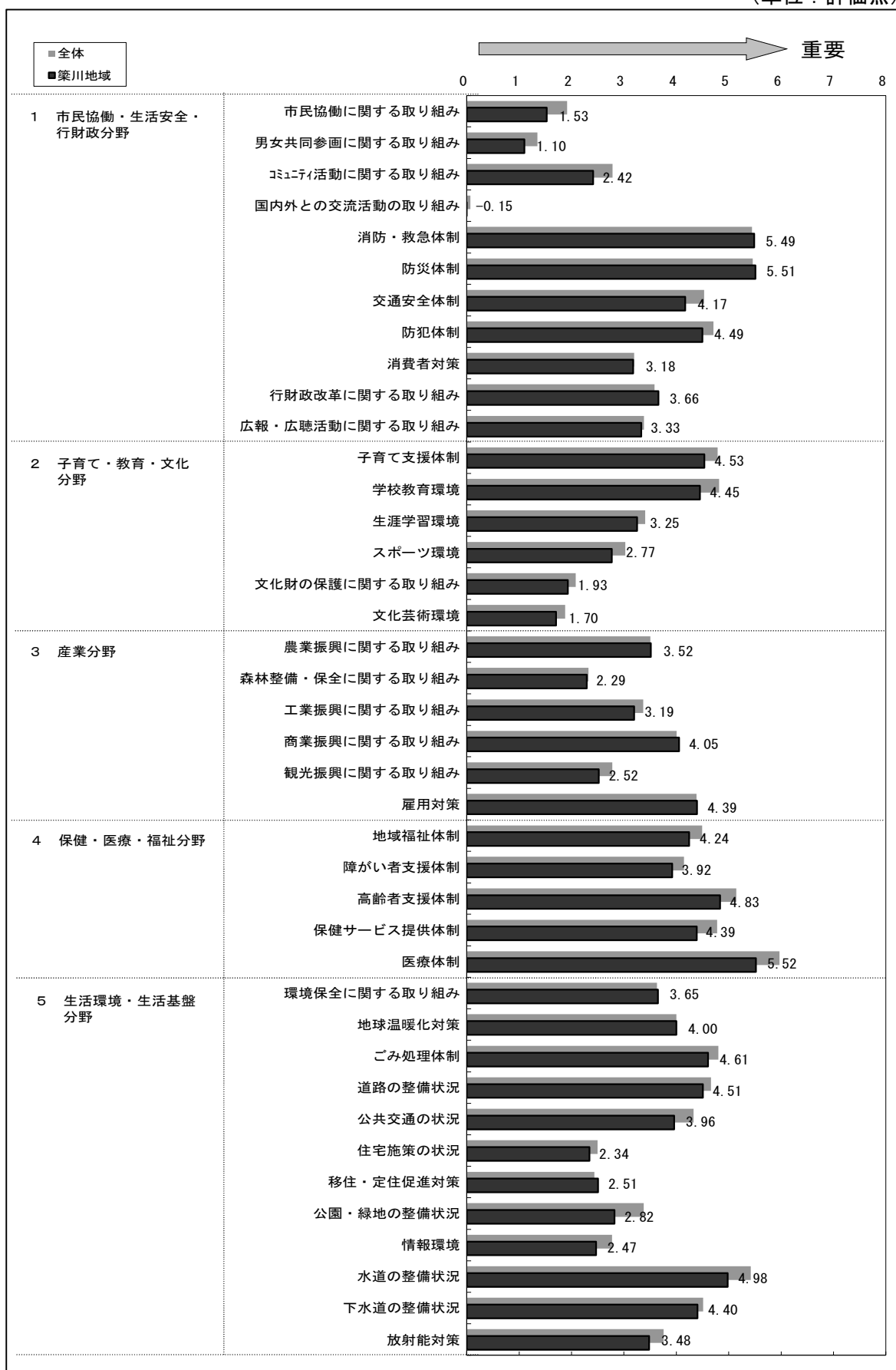
伊達地域

（単位：評価点）



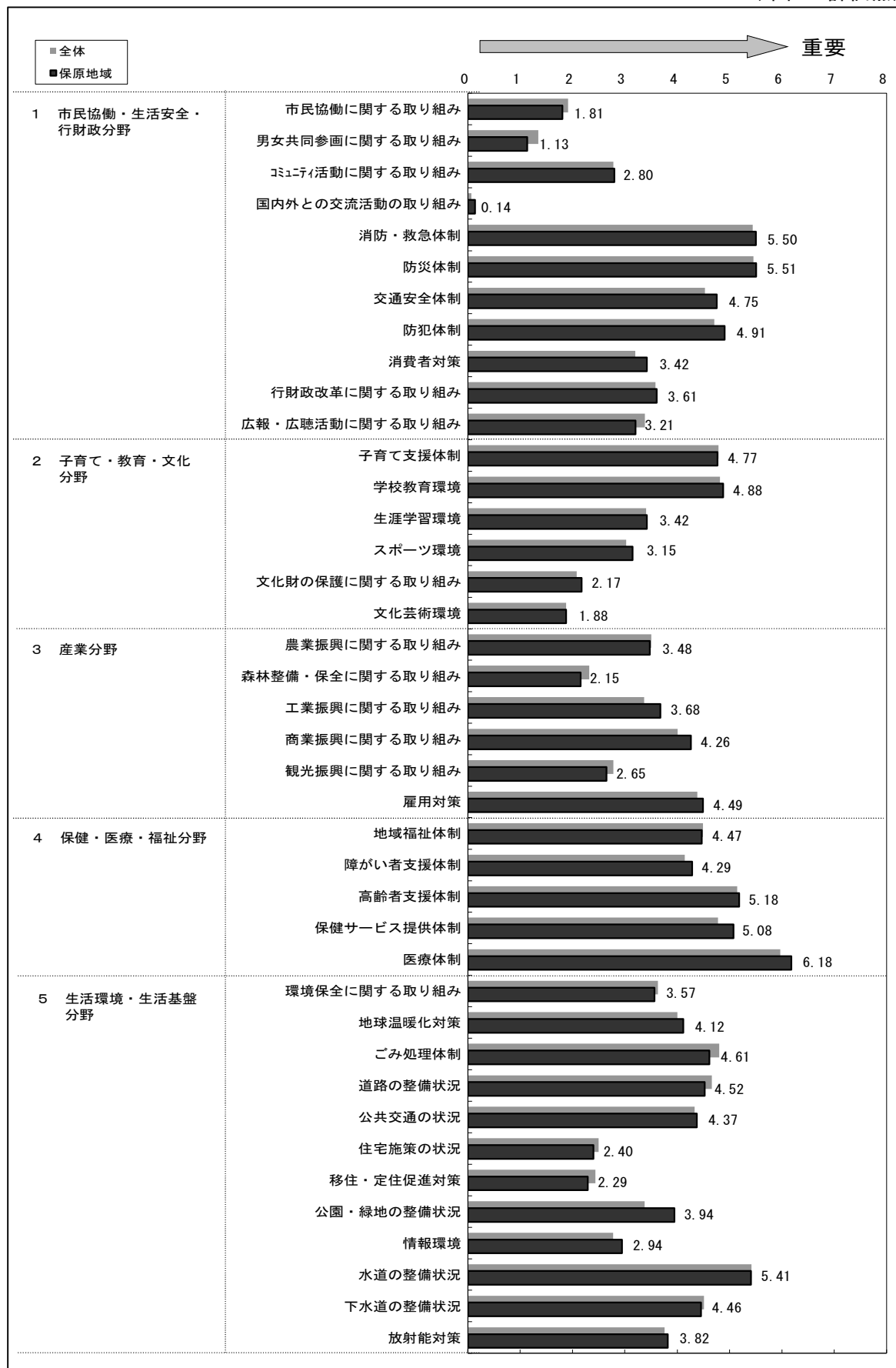
梁川地域

(単位：評価点)



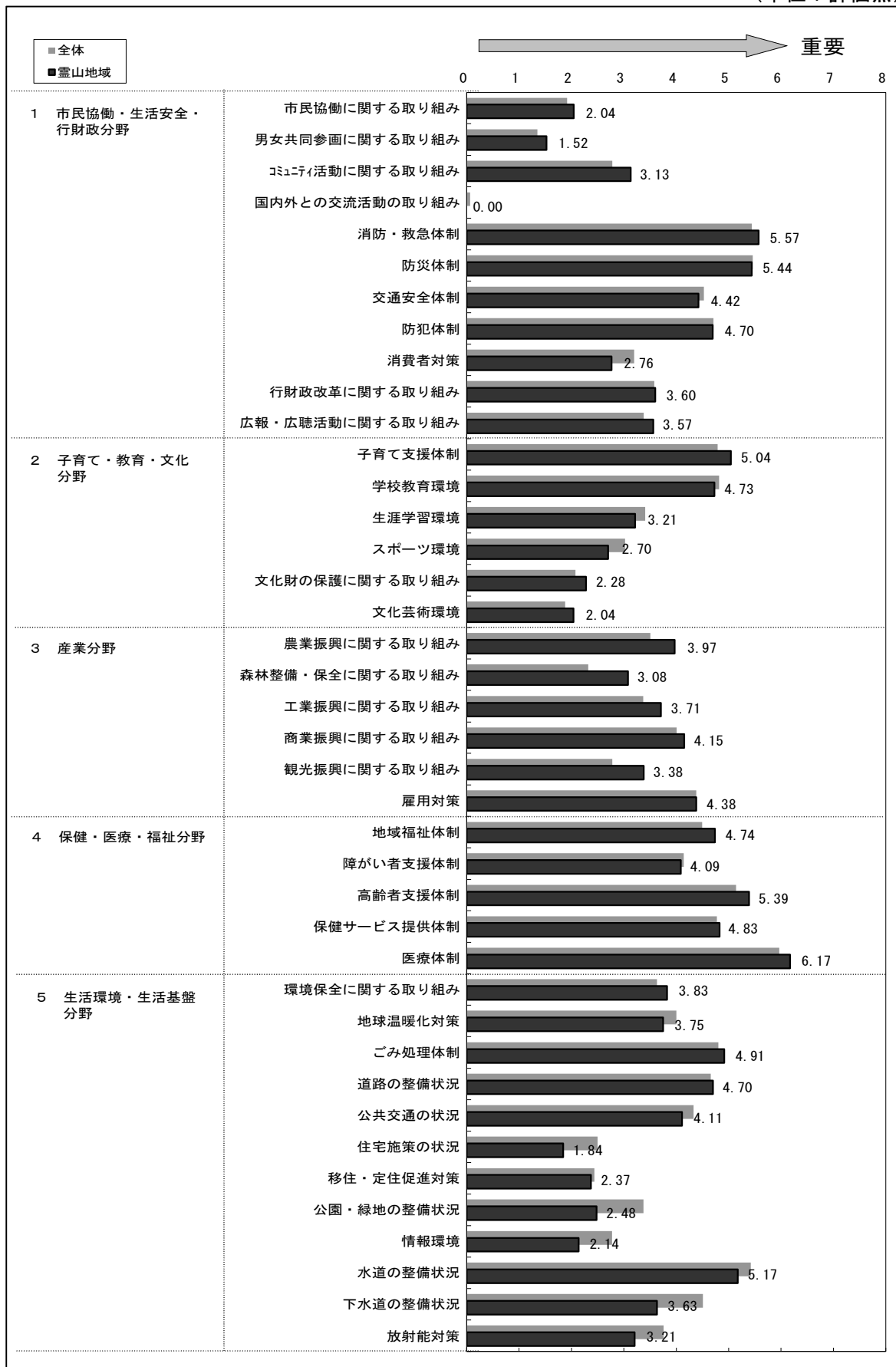
保原地域

(単位：評価点)



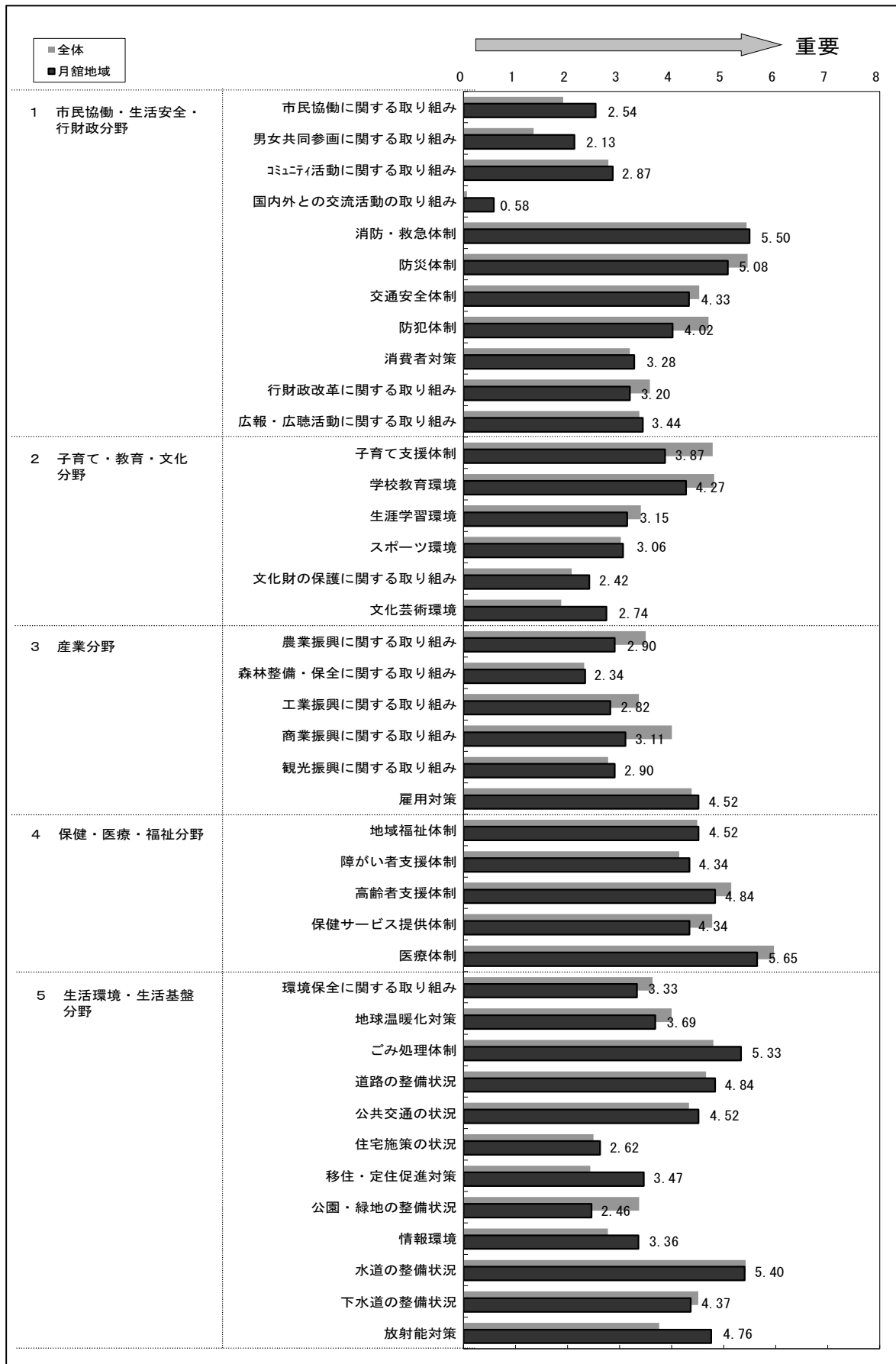
霊山地域

(単位：評価点)



月館地域

(単位：評価点)



(3) 満足度と重要度の相関（優先度）

- 優先度が最も高いのは「雇用対策」。次いで「公共交通の状況」、「商業振興に関する取り組み」、「医療体制」、「道路の整備状況」の順。

これまでみてきた満足度と重要度の分析結果を踏まえ、今後優先的に取り組むべき施策項目を抽出するための一つの試みとして、満足度評価と重要度評価を相関させた散布図を作成しました。このグラフでは左上隅の「満足度評価最低・重要度評価最高」に近づくほど優先度が高くなり、右下隅の「満足度評価最高・重要度評価最低」に近づくほど優先度が低くなります。この散布図による数量化〔下記参照〕で優先度（評価点：最高点 42.43 点、中間点 0 点、最低点 -42.43 点）を算出しました。

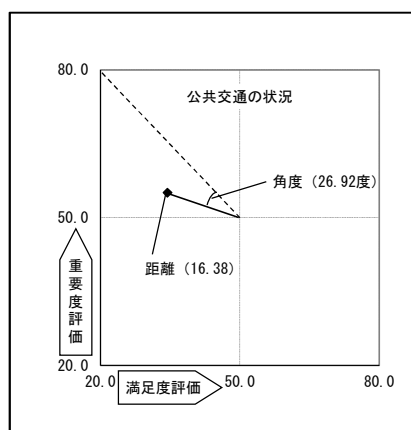
その結果、優先度が最も高いのは「雇用対策」（12.62 点）で、次いで第 2 位が「公共交通の状況」（11.48 点）、第 3 位が「商業振興に関する取り組み」（10.50 点）、続いて「医療体制」（7.65 点）、「道路の整備状況」（6.51 点）などの順となっています。

〔図表 12・13 参照〕

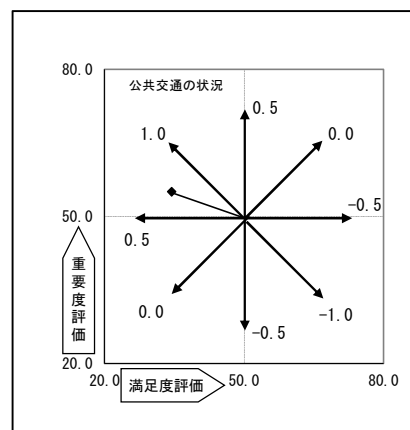
※優先度の算出方法

- ① 散布図を作成するため満足度偏差値・重要度偏差値を算出する。
例：「公共交通の状況」→満足度偏差値 34.43…、重要度偏差値 55.08…
- ② ①で算出した偏差値から平均（中心）からの距離を算出する。
例：「公共交通の状況」→ $16.38\cdots = \sqrt{(34.43-50)^2 + (55.08-50)^2}$
- ③ 平均（中心）から「満足度評価最低・重要度評価最高」への線と平均（中心）から各項目への線の角度を求める。
例：「公共交通の状況」→26.92 度
- ④ ③で求められた角度より修正指数を算出する（指数は下記のとおり設定し、左上隅の「満足度評価最低・重要度評価最高」に近づくほど得点が高くなる）。
例：「公共交通の状況」→ $0.7009 = (90-26.92) \times (1 \div 90)$
- ⑤ ②で算出された平均（中心）からの距離と③で算出された修正指数から優先度を算出する。
例：「公共交通の状況」→ $11.48 = 16.38\cdots \times 0.7009\cdots$

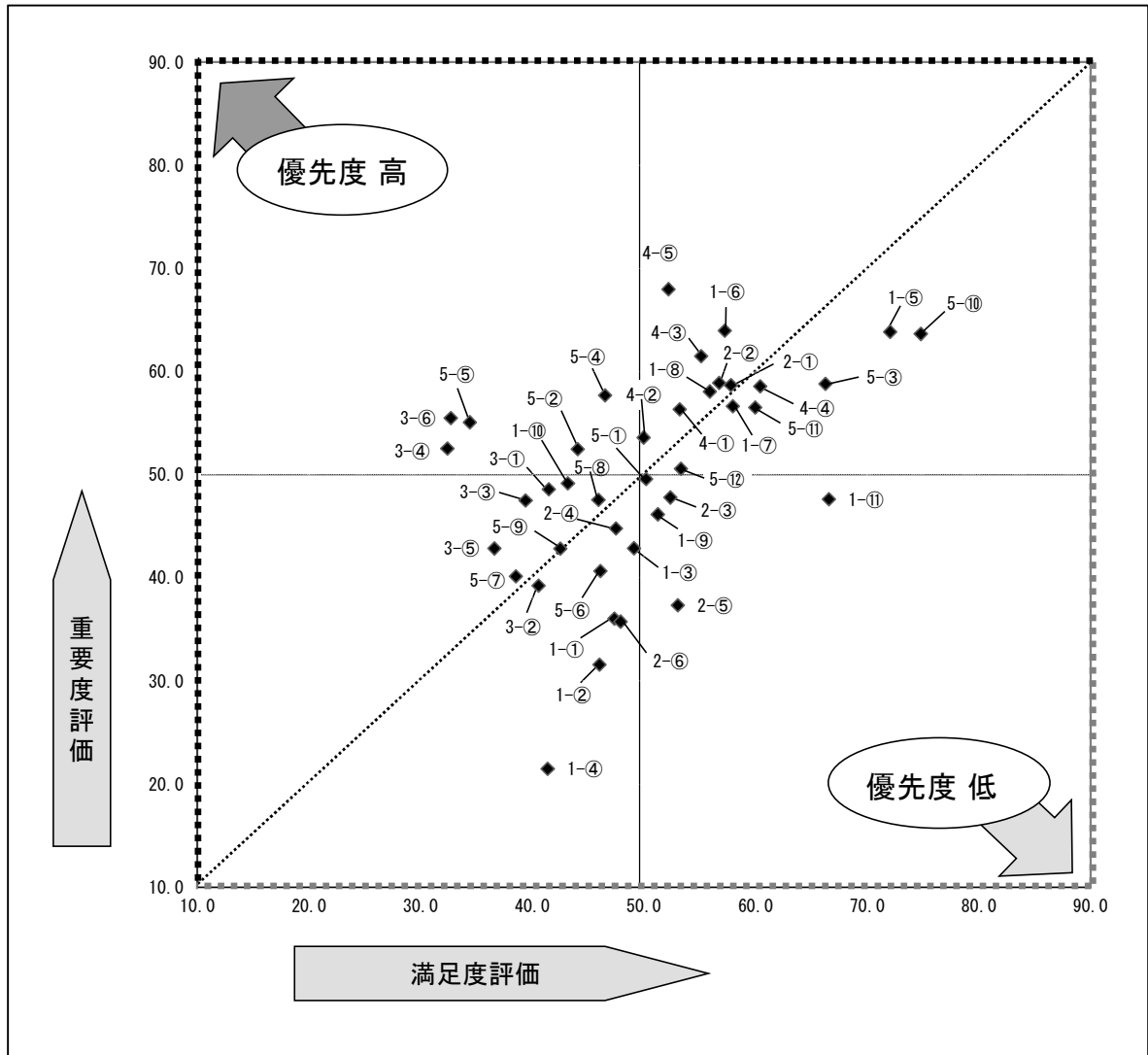
距離・角度



指数の設定



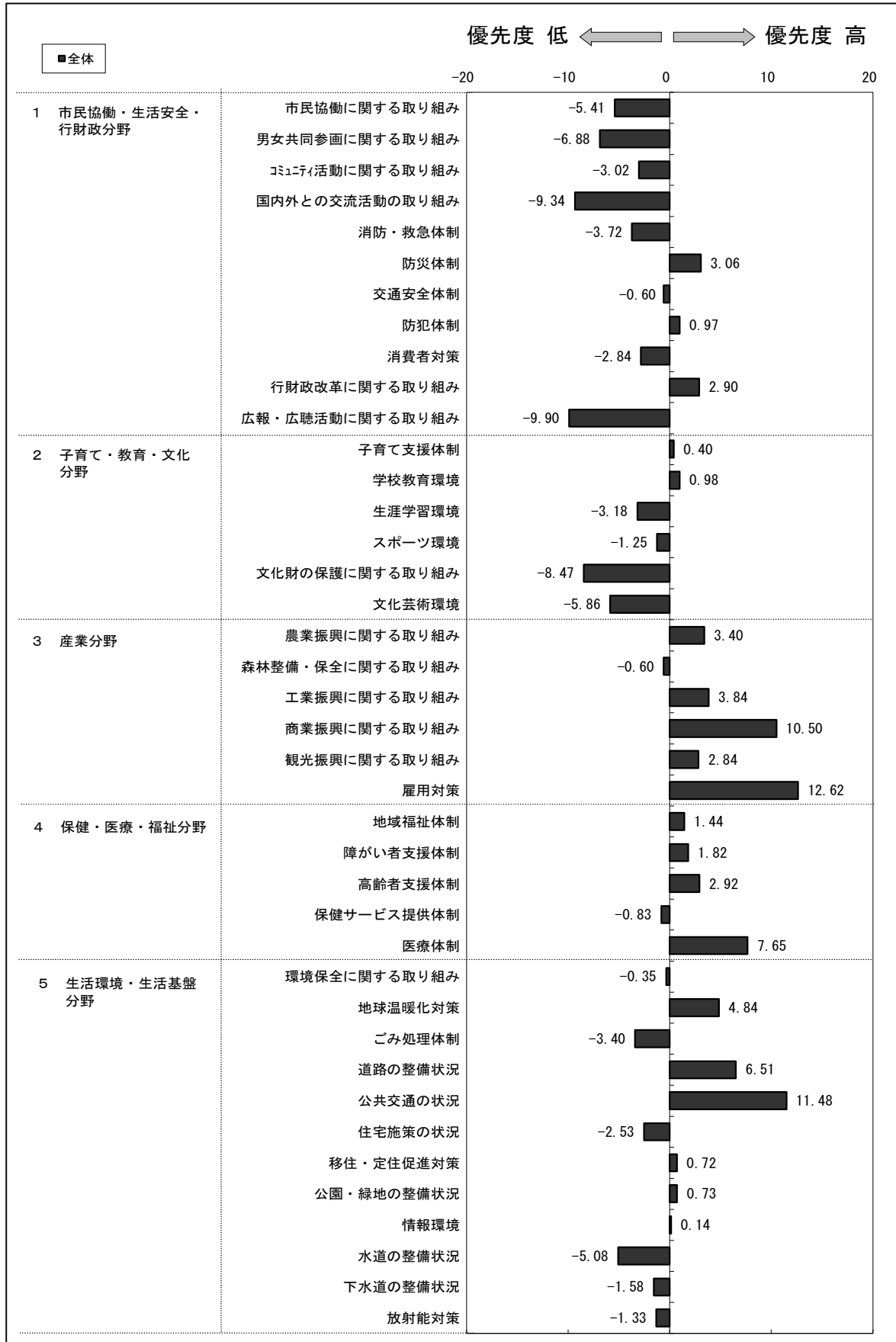
図表 12 満足度と重要度の相関（全体／優先度）



優先度高い		優先度低い	
3-6 雇用対策	3-5 観光振興に関する取り組み	1-11 広報・広聴活動に関する取り組み	2-3 生涯学習環境
5-5 公共交通の状況	4-2 障がい者支援体制	1-3 コミュニティ活動に関する取り組み	1-9 消費者対策
3-4 商業振興に関する取り組み	4-1 地域福祉体制	1-4 国内外との交流活動の取り組み	5-6 住宅施策の状況
4-5 医療体制	2-2 学校教育環境	2-5 文化財の保護に関する取り組み	5-11 下水道の整備状況
5-4 道路の整備状況	1-8 防犯体制	1-2 男女共同参画に関する取り組み	5-12 放射能対策
5-2 地球温暖化対策	5-8 公園・緑地の整備状況	2-6 文化芸術環境	2-4 スポーツ環境
3-3 工業振興に関する取り組み	5-7 移住・定住促進対策	1-1 市民協働に関する取り組み	4-4 保健サービス提供体制
3-1 農業振興に関する取り組み	2-1 子育て支援体制	5-10 水道の整備状況	1-7 交通安全体制
1-6 防災体制	5-9 情報環境	1-5 消防・救急体制	3-2 森林整備・保全に関する取り組み
4-3 高齢者支援体制		5-3 ごみ処理体制	5-1 環境保全に関する取り組み
1-10 行財政改革に関する取り組み			

図表 13 満足度と重要度の相関（全体）

（単位：評価点）



(4) 今後のまちづくりの特色

問8 あなたは、今後のまちづくりにおいて、伊達市をどのような特色のあるまちにすべきだと考えますか。【複数回答】



- 「安全・安心のまち」と「健康・福祉のまち」が他を大きく引き離して第1・2位を占める。続いて「子育て・教育のまち」、「快適住環境のまち」の順。

今後、伊達市をどのような特色のあるまちにすべきかについては、「安全・安心のまち」(43.2%)と「健康・福祉のまち」(41.5%)がほぼ同率で他を大きく引き離して第1・2位を占め、問7(2)の「市の各環境に対する重要度」の結果を裏づけるように、“安全・安心な暮らしの確保”と“保健・医療・福祉の充実”が強く望まれていることがうかがえます。

これら以外では、「子育て・教育のまち」(24.1%)、「快適住環境のまち」(15.9%)と続き、“子育て環境・教育環境の充実”や“きれいで快適な生活環境の整備”についても一定程度の市民から支持されています。

中学生アンケートの結果(今後のまちづくりの特色)と比較すると、「安全・安心のまち」が第1位であることに変わりはありませんが、第2位以下をみると、市民では健康・福祉や子育て・教育、中学生では住環境や環境保全、観光を重視する人が多く、やや違いをみせています。

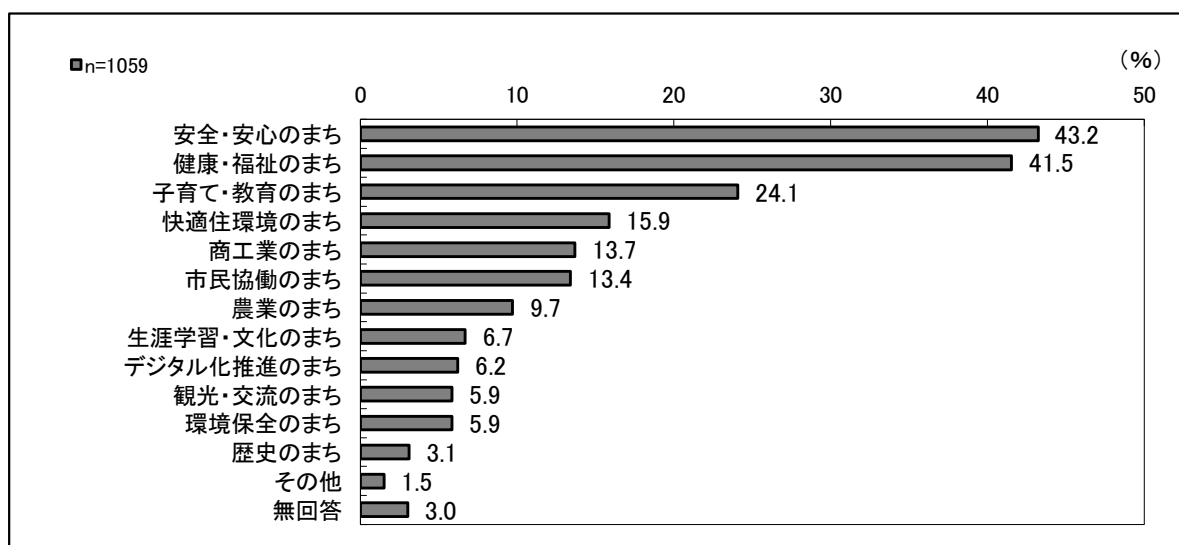
属性別でみると、ほとんどの属性で市全体と同様に「安全・安心のまち」あるいは「健康・福祉のまち」が第1・2位を占めていますが、10・20代と30代では市全体で第3位の「子育て・教育のまち」(29.5%・64.1%)が第1位、40代でも「子育て・教育のまち」(32.1%)が第2位となっており、これら子育て世代では、“子育て環境・教育環境の充実”が最も重視されていることがうかがえます。[図表14・15参照]

【比較】

中学生アンケート

「安全・安心のまち」、「快適住環境のまち」、「環境保全のまち」、
「観光・交流のまち」、「健康・福祉のまち」の順。

図表 14 今後のまちづくりの特色（全体／複数回答）



図表 15 今後のまちづくりの特色（全体・性別・年齢・居住地域－上位3位／複数回答）
（単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全体		安全・安心のまち 43.2	健康・福祉のまち 41.5	子育て・教育のまち 24.1
性別	男性	安全・安心のまち 43.2	健康・福祉のまち 35.9	子育て・教育のまち 23.4
	女性	健康・福祉のまち 46.0	安全・安心のまち 43.5	子育て・教育のまち 24.6
年齢	10・20代	子育て・教育のまち 29.5	健康・福祉のまち 28.4	安全・安心のまち 26.3
	30代	子育て・教育のまち 64.1	安全・安心のまち 31.5	健康・福祉のまち 30.4
	40代	健康・福祉のまち 32.8	子育て・教育のまち 32.1	安全・安心のまち 31.3
	50代	安全・安心のまち 50.3	健康・福祉のまち 37.9	快適住環境のまち 19.0
	60代	安全・安心のまち 49.7	健康・福祉のまち 44.1	子育て・教育のまち 22.1
	70歳以上	健康・福祉のまち 52.3	安全・安心のまち 47.7	市民協働のまち 21.8
居住地域	伊達地域	健康・福祉のまち 43.0	安全・安心のまち 36.7	子育て・教育のまち 27.1
	梁川地域	安全・安心のまち 46.3	健康・福祉のまち 37.5	子育て・教育のまち 25.1
	保原地域	健康・福祉のまち 45.3	安全・安心のまち 43.9	子育て・教育のまち 24.2
	霊山地域	安全・安心のまち 40.2	健康・福祉のまち 38.5	子育て・教育のまち 18.0
	月舘地域	安全・安心のまち 54.7	健康・福祉のまち 42.2	子育て・教育のまち 20.3

3 地域活動について

(1) 地域活動への参加意向

問 9 伊達市では、「伊達市シティプロモーション指針」に基づき、市民の皆様による地域活動（環境整備、防災活動、地域内での子育てなど、お住いの地域に対して愛着を持って自主的に行う活動）に対する意欲の向上に取り組んでいます。地域活動などに関する次の設問にお答えください。

(1) あなたは、地域活動に参加したいと思いますか。



● “参加したい” が 39.9%、“参加したくない” が 19.0%。

市民の地域活動への参加意向を探るため、「参加したい」、「どちらかといえば参加したい」、「どちらともいえない」、「どちらかといえば参加したくない」、「参加したくない」の中から1つを選んでもらいました。

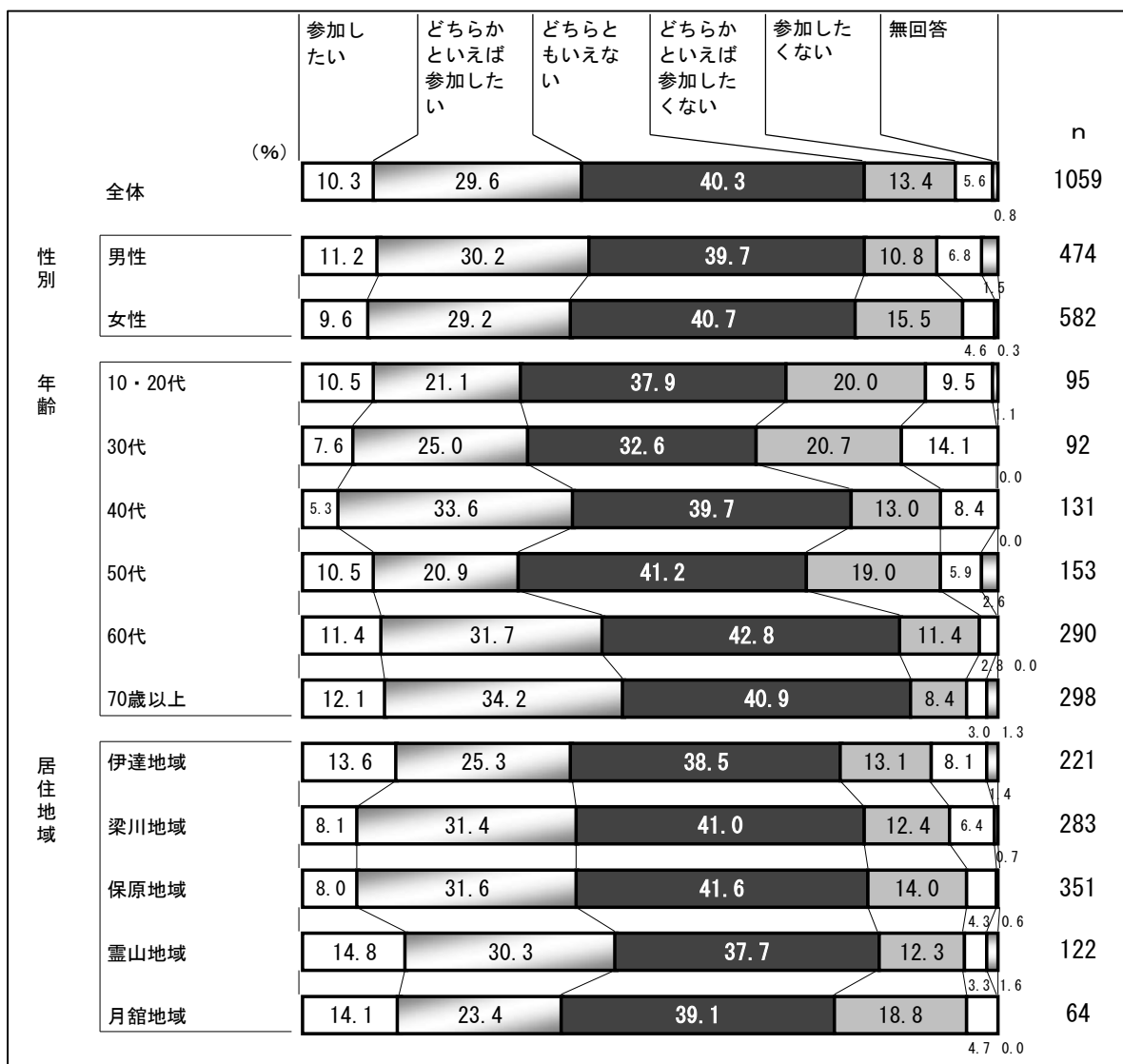
その結果、「どちらともいえない」と回答を保留した人が 40.3%と約4割となっていますが、これ以外では、「どちらかといえば参加したい」と答えた人が 29.6%で最も多く、これと「参加したい」(10.3%)をあわせた“参加したい”という人も 39.9%と約4割にのぼっています。これに対し、“参加したくない”という人（「どちらかといえば参加したくない」13.4%と「参加したくない」5.6%の合計）は 19.0%と約2割という状況です。

属性別で“参加したい”率をみると、性別では、男性（41.4%）が女性（38.8%）を約3ポイント上回り、男性の参加意向がわずかに強くなっています。

年齢別では、概ね年齢層が上がるにつれて“参加したい”率も上昇していく傾向にあり、60代（43.1%）や70歳以上（46.3%）では4割を超えて高い一方、10・20代（31.6%）や30代（32.6%）の若い層では3割強程度と低くなっています。また、50代（31.4%）ではすべての年齢層の中で最も低く、特徴的な結果となっています。

居住地域別では、“参加したい”率は、他の地域に比べ、霊山地域（45.1%）で高く、月舘地域（37.5%）で低くなっています。[図表 16 参照]

図表 16 地域活動への参加意向（全体・性別・年齢・居住地域）



(2) 市民が行っている地域活動への感謝の程度

問9 伊達市では、「伊達市シティプロモーション指針」に基づき、市民の皆様による地域活動（環境整備、防災活動、地域内での子育てなど、お住いの地域に対して愛着を持って自主的に行う活動）に対する意欲の向上に取り組んでいます。地域活動などに関する次の設問にお答えください。

(2) あなたは、市民が行っている地域活動にどの程度感謝していますか。

● “感謝している”が69.8%、“感謝していない”が5.3%。

市民が行っている地域活動への感謝の程度を探るため、「とても感謝している」、「まあまあ感謝している」、「どちらでもない」、「それほど感謝していない」、「感謝していない」の中から1つを選んでもらいました。

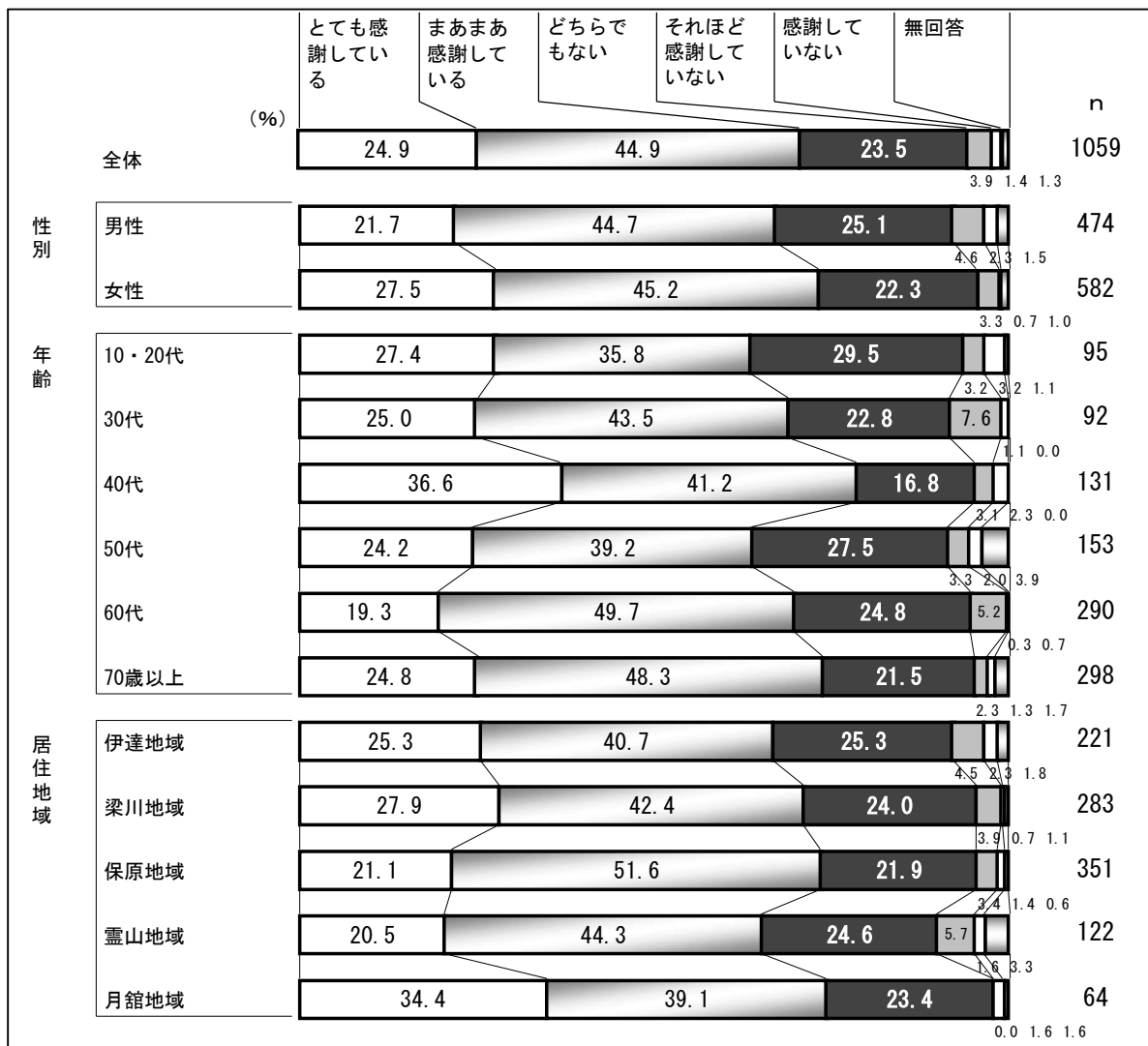
その結果、「まあまあ感謝している」と答えた人が44.9%で最も多く、次いで「とても感謝している」と答えた人が24.9%で、これらをあわせた“感謝している”という人が69.8%と約7割にのぼっています。これに対し、“感謝していない”という人（「それほど感謝していない」3.9%と「感謝していない」1.4%の合計）は5.3%と5%程度で、多くの市民が地域活動に感謝している様子が見えます。

属性別で“感謝している”率をみると、性別では、女性（72.7%）が男性（66.4%）を約6ポイント上回り、女性の地域活動への評価がやや高くなっています。

年齢別では、“感謝している”率が高い順に、40代（77.8%）、70歳以上（73.1%）、60代（69.0%）、30代（68.5%）、50代（63.4%）、10・20代（63.2%）となっており、40代の高さと10・20代及び50代の低さが目立つ結果となっています。

居住地域別では、“感謝している”率は月舘地域（73.5%）で最も高く、次いで保原地域（72.7%）、梁川地域（70.3%）、伊達地域（66.0%）、霊山地域（64.8%）となっており、伊達地域と霊山地域では7割に満たず低くなっています。[図表17参照]

図表 17 市民が行っている地域活動への感謝の程度（全体・性別・年齢・居住地域）



(3) 市の魅力を友人や知人にすすめたいか

問9 伊達市では、「伊達市シティプロモーション指針」に基づき、市民の皆様による地域活動（環境整備、防災活動、地域内での子育てなど、お住いの地域に対して愛着を持って自主的に行う活動）に対する意欲の向上に取り組んでいます。地域活動などに関する次の設問にお答えください。

(3) あなたは、伊達市の魅力を友人や知人におすすめしたいと思いますか。



● “おすすめしたい” が 42.0%、“おすすめしたくない” が 8.4%。

市の魅力を友人や知人にすすめたいかどうかについて、「おすすめしたい」、「どちらかといえばおすすめしたい」、「どちらともいえない」、「どちらかといえばおすすめしたくない」、「おすすめしたくない」の中から1つを選んでもらいました。

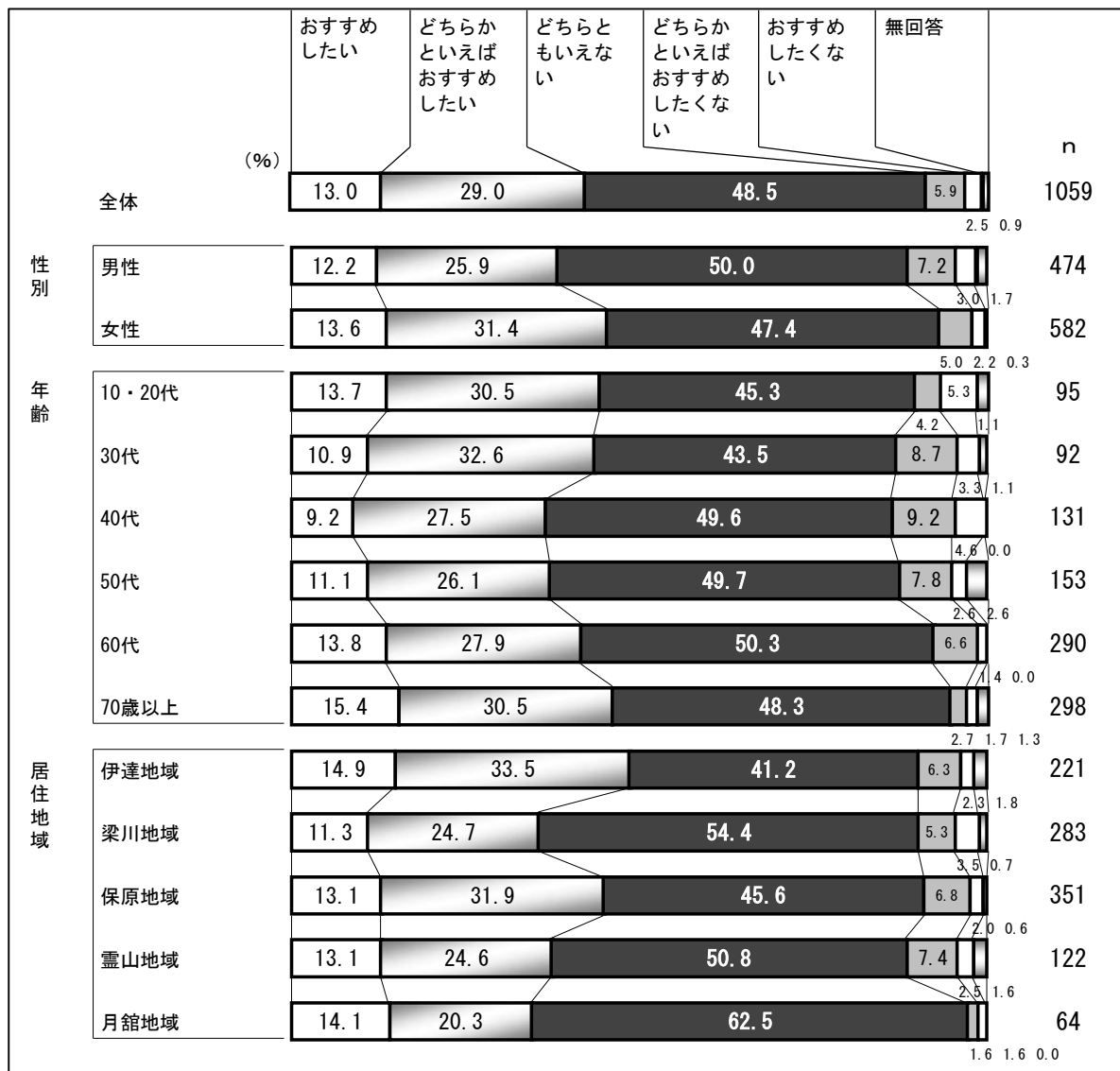
その結果、「どちらともいえない」と回答を保留した人が 48.5%と半数弱にのぼっていますが、これ以外では、「どちらかといえばおすすめしたい」と答えた人が 29.0%で最も多く、次いで「おすすめしたい」と答えた人が 13.0%で、これらをあわせた“おすすめしたい”という人が 42.0%と4割強にのぼっています。これに対し、“おすすめしたくない”という人（「どちらかといえばおすすめしたくない」5.9%と「おすすめしたくない」2.5%の合計）は 8.4%と1割弱となっています。

属性別で“おすすめしたい”率をみると、性別では、女性（45.0%）が男性（38.1%）を約7ポイント上回り、市の魅力を知ってもらいたいという人は女性でかなり多くなっています。

年齢別では、“おすすめしたい”率が高い順に、70歳以上（45.9%）、10・20代（44.2%）、30代（43.5%）、60代（41.7%）、50代（37.2%）、40代（36.7%）となっており、高齢層と若年層で高くなっています。

居住地域別では、“おすすめしたい”率は伊達地域（48.4%）で最も高く、次いで保原地域（45.0%）、霊山地域（37.7%）、梁川地域（36.0%）、月舘地域（34.4%）の順となっており、伊達地域・保原地域と霊山地域・梁川地域・月舘地域ではかなりの差がみられます。[図表 18 参照]

図表 18 市の魅力を友人や知人にすすめたいか（全体・性別・年齢・居住地域）



4 公共施設について

(1) 公共施設を利用する際の移動手段

問 10 伊達市では、急激な人口減少や少子高齢化に加え、厳しい財政状況の中で、公共施設の老朽化やニーズの変化に対応する必要があり、施設の配置適正化に取り組んでいます。まちづくりの視点から市民協働で公共施設のあり方を考えるため、次の設問にお答えください。

(1) あなたは、どのような移動手段で公共施設を利用していますか【複数回答】

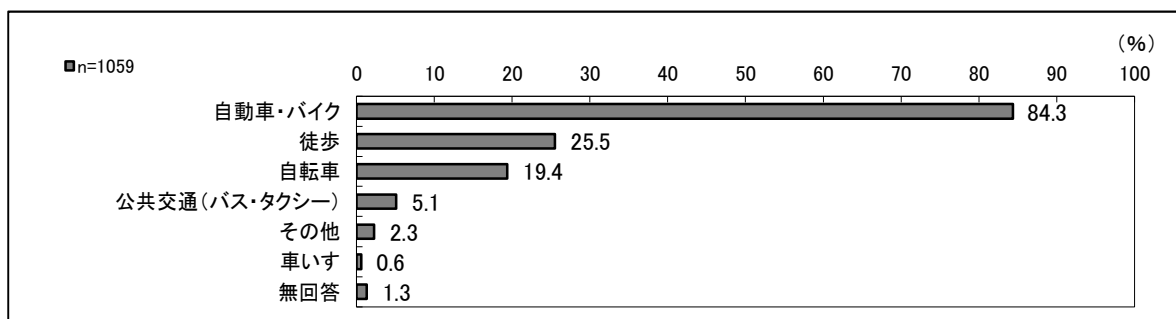
- 「自動車・バイク」が他を引き離して第1位。次いで「徒歩」、「自転車」、「公共交通（バス・タクシー）」の順。

公共施設を利用する際の移動手段については、「自動車・バイク」（84.3%）が他を引き離して第1位で、8割以上の人が車やバイクを利用していることがわかります。これ以外では、「徒歩」（25.5%）、「自転車」（19.4%）、「公共交通（バス・タクシー）」（5.1%）などの順となっています。

属性別でみると、ほとんどの属性で市全体と同様に「自動車・バイク」が第1位、「徒歩」が第2位、「自転車」が第3位となっていますが、10・20代では「自転車」（36.8%）が第2位、「徒歩」（35.8%）が第3位となっています（本アンケートは16歳以上を対象としており、10・20代では自動車の運転免許を持っていない人もいるためと考えられます）。

また、伊達地域と保原地域では「自動車・バイク」（77.8%・84.3%）の率が他の地域に比べて低く、「徒歩」（35.7%・28.2%）と「自転車」（28.5%・22.5%）の率が高くなっています（次の問10（2）の「利用する機会の多い公共施設の自宅からの距離」の結果からもわかるように、伊達地域と保原地域は公共施設が“車で10分以内”の率が高いためと考えられます）。[図表19・20参照]

図表 19 公共施設を利用する際の移動手段（全体／複数回答）



図表 20 公共施設を利用する際の移動手段
(全体・性別・年齢・居住地域－上位3位／複数回答)

(単位：％)

		第1位	第2位	第3位
全体		自動車・バイク 84.3	徒歩 25.5	自転車 19.4
性別	男性	自動車・バイク 88.0	徒歩 21.3	自転車 17.1
	女性	自動車・バイク 81.6	徒歩 28.9	自転車 21.1
年齢	10・20代	自動車・バイク 70.5	自転車 36.8	徒歩 35.8
	30代	自動車・バイク 93.5	徒歩 23.9	自転車 9.8
	40代	自動車・バイク 93.1	徒歩 22.9	自転車 19.8
	50代	自動車・バイク 88.2	徒歩 17.0	自転車 9.8
	60代	自動車・バイク 90.3	徒歩 26.2	自転車 17.6
	70歳以上	自動車・バイク 74.2	徒歩 27.5	自転車 23.2
居住地域	伊達地域	自動車・バイク 77.8	徒歩 35.7	自転車 28.5
	梁川地域	自動車・バイク 88.3	徒歩 18.7	自転車 14.5
	保原地域	自動車・バイク 84.3	徒歩 28.2	自転車 22.5
	霊山地域	自動車・バイク 84.4	徒歩 18.0	自転車 8.2
	月舘地域	自動車・バイク 90.6	徒歩 14.1	自転車 10.9

(2) 利用する機会の多い公共施設の自宅からの距離

問 10 伊達市では、急激な人口減少や少子高齢化に加え、厳しい財政状況の中で、公共施設の老朽化やニーズの変化に対応する必要があり、施設の配置適正化に取り組んでいます。まちづくりの視点から市民協働で公共施設のあり方を考えるため、次の設問にお答えください。

(2) あなたが利用する機会が多い公共施設は、自宅からどの程度の距離にありますか。



- 「車で 10 分以内（徒歩約 30 分以内）」が 46.0%、「車で 10～30 分」が 24.1%、「車で 2～3 分（徒歩約 10 分以内）」が 19.4%。

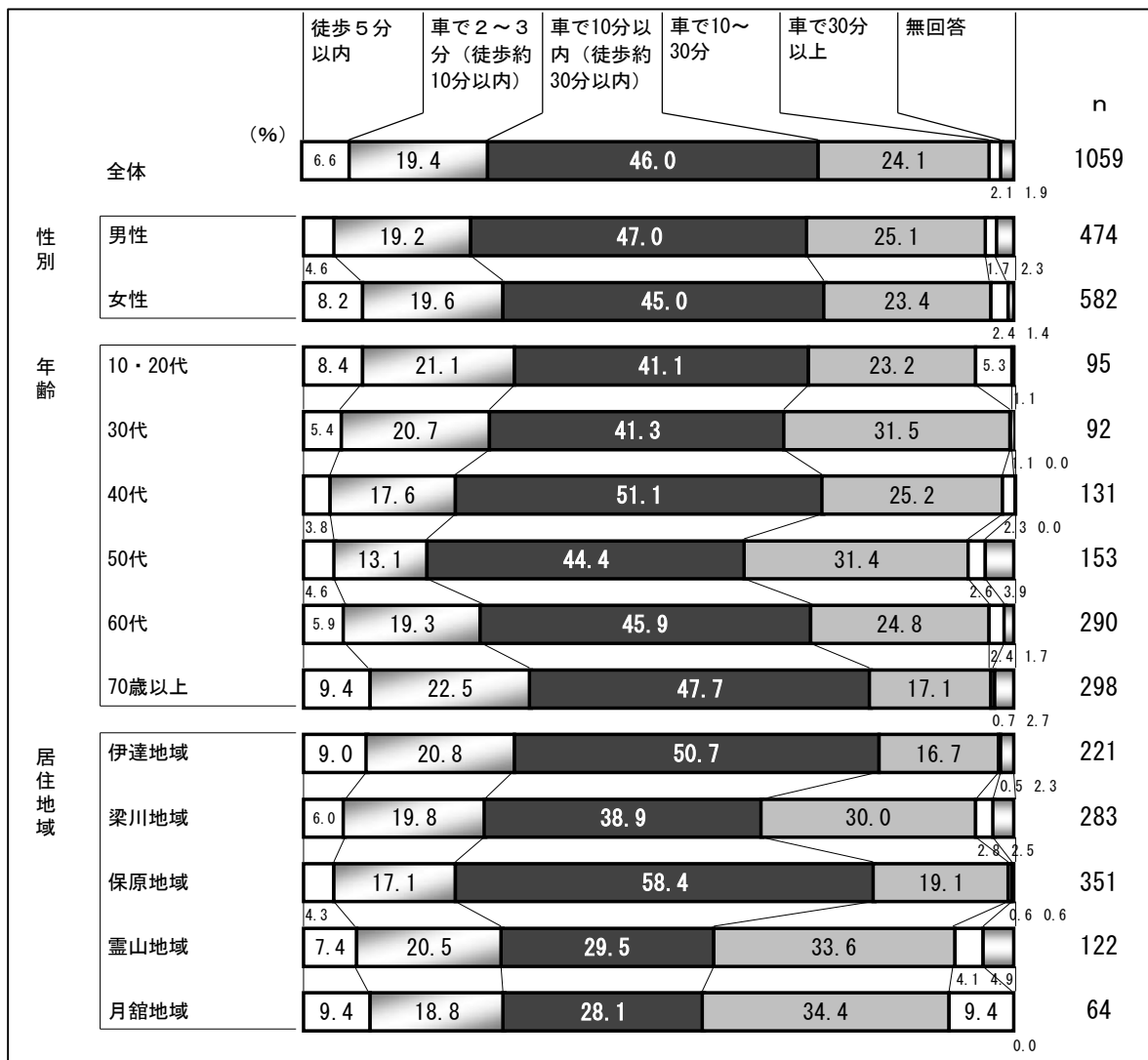
利用する機会の多い公共施設が、自宅からどの程度の距離にあるかについては、「車で 10 分以内（徒歩約 30 分以内）」と答えた人が最も多く 46.0%と半数弱、次いで「車で 10～30 分」が 24.1%と 2 割強、「車で 2～3 分（徒歩約 10 分以内）」が 19.4%と約 2 割、「徒歩 5 分以内」が 6.6%、「車で 30 分以上」が 2.1%となっています。

これを“車で 10 分以内”と“車で 10 分以上”にわけると、“車で 10 分以内”が 72.0%と 7 割強、“車で 10 分以上”が 26.2%と 3 割弱という状況です。

属性別で“車で 10 分以内”の率をみると、性別では、大きな違いはみられず、年齢別では、70 歳以上（79.6%）で最も高く、50 代（62.1%）で最も低くなっています。

居住地域別では、“車で 10 分以内”の率が高い順に、伊達地域（80.5%）、保原地域（79.8%）、梁川地域（64.7%）、霊山地域（57.4%）、月舘地域（56.3%）となっており、伊達地域・保原地域と梁川地域・霊山地域・月舘地域ではかなりの差がみられます。[図表 21 参照]

図表 21 利用する機会の多い公共施設の自宅からの距離（全体・性別・年齢・居住地域）



(3) 公共施設の維持・管理コストの低減、効率化について

問 10 伊達市では、急激な人口減少や少子高齢化に加え、厳しい財政状況の中で、公共施設の老朽化やニーズの変化に対応する必要があり、施設の配置適正化に取り組んでいます。まちづくりの視点から市民協働で公共施設のあり方を考えるため、次の設問にお答えください。

(3) 公共施設の維持・管理には多額の費用がかかることから、伊達市を含む多くの自治体が施設の統廃合を進め、コストの低減、施設の効率化に取り組んでいます。このことについて、あなたはどのようにお考えですか。



● 「使用できるうちは残し老朽化したら廃止」が 48.3%、「施設を統廃合するのはやむをえない」が 35.7%。

公共施設の維持・管理コストの低減、施設の効率化についてどのように考えるかについては、「使用できるうちは残し老朽化したら廃止」と答えた人が最も多く 48.3%と半数弱、次いで「施設を統廃合するのはやむをえない」と答えた人が 35.7%と4割弱で、これら2つに回答が集中する結果（合計 84.0%）となっており、“施設の状況等に応じて廃止・統廃合はやむをえない”という意見が主流を占めていることがうかがえます。

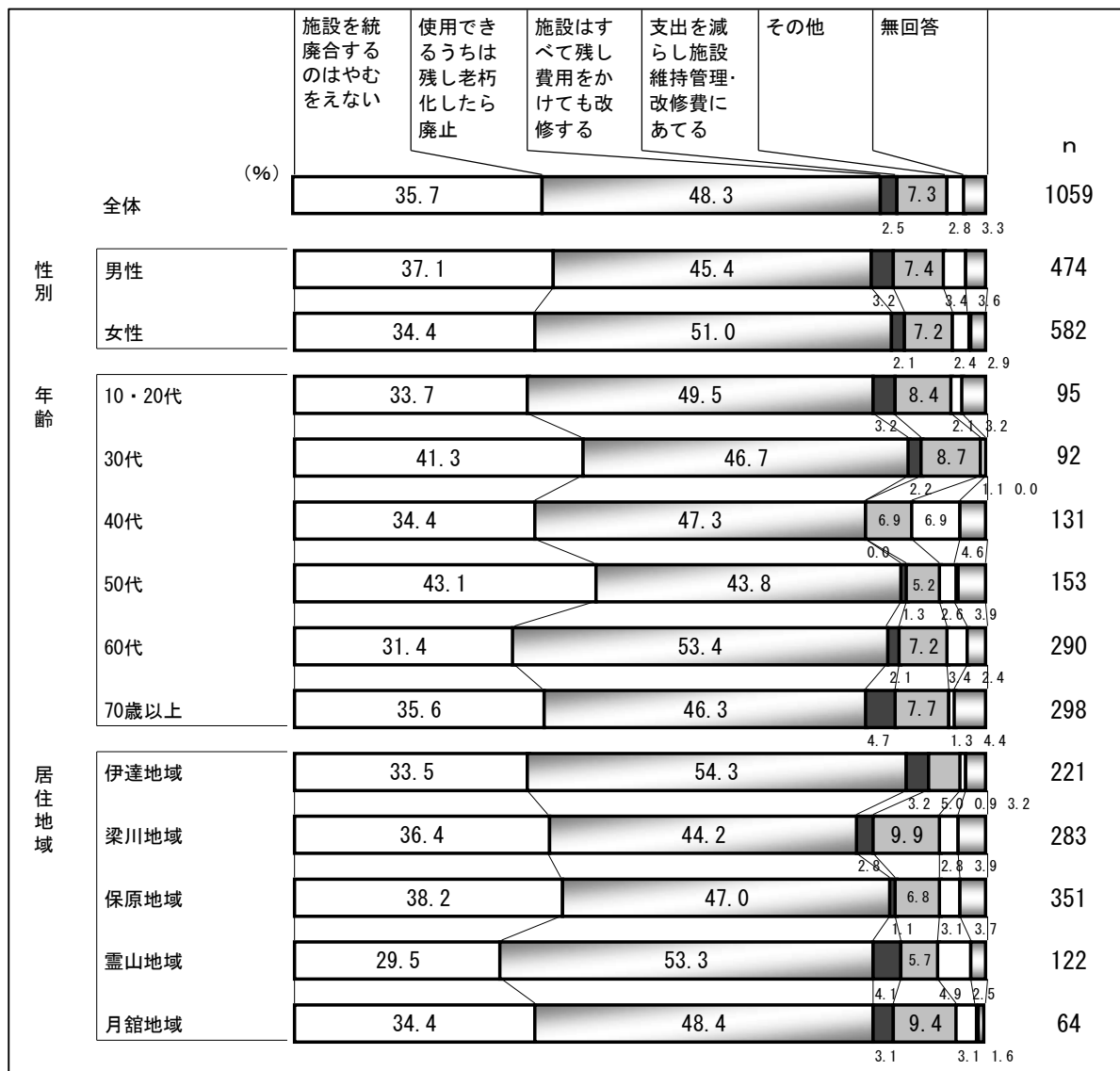
これら以外では、「支出を減らし施設維持管理・改修費にあてる」が 7.3%、「施設はすべて残し費用をかけても改修する」が 2.5%となっています。

属性別でみると、性別では、「使用できるうちは残し老朽化したら廃止」と答えた率が女性（51.0%）でやや高くなっています。

年齢別では、「施設を統廃合するのはやむをえない」と答えた率が 30 代（41.3%）と 50 代（43.1%）で4割を超えて高く、特に 50 代では「使用できるうちは残し老朽化したら廃止」（43.8%）とほぼ同率となっています。また、「使用できるうちは残し老朽化したら廃止」と答えた率は、10・20 代（49.5%）と 60 代（53.4%）で高くなっています。なお、これら上位2回答をあわせた“施設の状況等に応じて廃止・統廃合はやむをえない”という率では、30 代（88.0%）と 50 代（86.9%）で比較的高くなっています。

居住地域別では、「施設を統廃合するのはやむをえない」と答えた率が梁川地域（36.4%）と保原地域（38.2%）でやや高く、「使用できるうちは残し老朽化したら廃止」と答えた率が伊達地域（54.3%）と霊山地域（53.3%）でかなり高くなっています。なお、これら上位2回答をあわせた“施設の状況等に応じて廃止・統廃合はやむをえない”という率では、伊達地域（87.8%）と保原地域（85.2%）で比較的高くなっています。[図表 22 参照]

図表 22 公共施設の維持・管理コストの低減、効率化について
(全体・性別・年齢・居住地域)



(4) どのような施設から集約・統廃合を行うべきか

問 10 伊達市では、急激な人口減少や少子高齢化に加え、厳しい財政状況の中で、公共施設の老朽化やニーズの変化に対応する必要があり、施設の配置適正化に取り組んでいます。まちづくりの視点から市民協働で公共施設のあり方を考えるため、次の設問にお答えください。

(4) 公共施設の集約・統廃合を行う場合、どのような施設から対象にすべきとお考えですか。【複数回答】



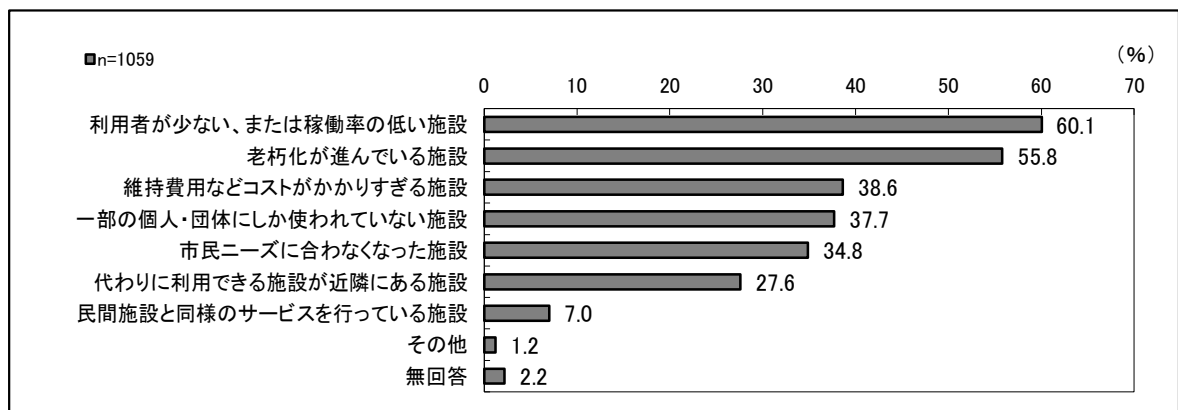
● 「利用者が少ない、または稼働率の低い施設」と「老朽化が進んでいる施設」が第1・2位を占める。

公共施設の集約・統廃合を行う場合、どのような施設から対象にすべきかをたずねたところ、「利用者が少ない、または稼働率の低い施設」(60.1%)と「老朽化が進んでいる施設」(55.8%)が他をやや引き離して第1・2位を占め、代表的な意見となっており、利用者が少ない(または稼働率の低い)施設や老朽化した施設をまず対象にすべきと考える市民が多くなっています。

これら以外では、「維持費用などコストがかかりすぎる施設」(38.6%)、「一部の個人・団体にしか使われていない施設」(37.7%)、「市民ニーズに合わなくなった施設」(34.8%)、「代わりに利用できる施設が近隣にある施設」(27.6%)などの順となっています。

属性別でみると、すべての属性で市全体と同様に「利用者が少ない、または稼働率の低い施設」あるいは「老朽化が進んでいる施設」が第1・2位となっており、性別や年齢、居住地域にかかわらず、これらの施設をまず対象にすべきと考えていることがうかがえます。[図表 23・24 参照]

図表 23 どのような施設から集約・統廃合を行うべきか(全体/複数回答)



図表 24 どのような施設から集約・統廃合を行うべきか
(全体・性別・年齢・居住地域—上位3位／複数回答)

(単位：％)

		第1位	第2位	第3位
全体		利用者が少ない、または稼働率の低い施設 60.1	老朽化が進んでいる施設 55.8	維持費用などコストがかかりすぎる施設 38.6
性別	男性	利用者が少ない、または稼働率の低い施設 62.7	老朽化が進んでいる施設 50.2	一部の個人・団体にしか使われていない施設 40.5
	女性	老朽化が進んでいる施設 60.3	利用者が少ない、または稼働率の低い施設 58.1	維持費用などコストがかかりすぎる施設 38.8
年齢	10・20代	利用者が少ない、または稼働率の低い施設 67.4	老朽化が進んでいる施設 52.6	市民ニーズに合わなくなった施設 44.2
	30代	利用者が少ない、または稼働率の低い施設 58.7	老朽化が進んでいる施設 57.6	代わりに利用できる施設が近隣にある施設 40.2
	40代	利用者が少ない、または稼働率の低い施設 60.3	老朽化が進んでいる施設 57.3	維持費用などコストがかかりすぎる施設 41.2
	50代	利用者が少ない、または稼働率の低い施設 61.4	老朽化が進んでいる施設 45.1	一部の個人・団体にしか使われていない施設 39.9
	60代	老朽化が進んでいる施設 59.7	利用者が少ない、または稼働率の低い施設 57.9	維持費用などコストがかかりすぎる施設／一部の個人・団体にしか使われていない施設 40.7
	70歳以上	利用者が少ない、または稼働率の低い施設 59.4	老朽化が進んでいる施設 57.4	一部の個人・団体にしか使われていない施設 40.6
居住地域	伊達地域	利用者が少ない、または稼働率の低い施設 62.9	老朽化が進んでいる施設 52.0	一部の個人・団体にしか使われていない施設 39.8
	梁川地域	利用者が少ない、または稼働率の低い施設 60.4	老朽化が進んでいる施設 56.5	維持費用などコストがかかりすぎる施設 40.6
	保原地域	利用者が少ない、または稼働率の低い施設 59.3	老朽化が進んでいる施設 56.1	一部の個人・団体にしか使われていない施設 39.3
	霊山地域	利用者が少ない、または稼働率の低い施設 63.1	老朽化が進んでいる施設 55.7	市民ニーズに合わなくなった施設 40.2
	月舘地域	老朽化が進んでいる施設 59.4	利用者が少ない、または稼働率の低い施設 51.6	維持費用などコストがかかりすぎる施設 48.4

伊達市の今後のまちづくりのための 市民アンケート調査ご協力をお願い



市民の皆さまには、日頃より市政へのご理解とご協力をいただき、心から感謝を申し上げます。

さて、このたび伊達市では、今後のまちづくりを進めるための指針となる伊達市第3次総合計画（令和5年度～令和14年度の10年間の計画）を策定することになりました。

本調査は、この計画の策定にあたり、市民の皆さまのご意見をお聞かせいただき、これからのまちづくりを考える貴重な資料とするために実施するもので、16歳以上の市民の中から、3,000名を無作為に抽出したところ、あなたにお答え願うことになりました。

このアンケートは、統計的に処理し、本調査の目的以外に利用することはない、ご迷惑をおかけすることはありません。

お忙しいところ恐縮ですが、今後のまちづくりを、皆さまとともに考えていきたいと思っておりますので、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和3年9月

伊達市長 須田 博行

ご記入にあたってのお願い

- 宛名のご本人がお答えください。
- お答えは、設問ごとに（1つに○印）、（2つまで○印）などそれぞれ指定されていますので、お間違えのないようお願いします。
○印は、番号を囲むように濃くつけてください。（例 ①.）
- ご記入いただいた調査票は、**9月29日（水）まで**に同封の返信用封筒に入れて郵便ポストに投函してください（切手は不要です）。
- この調査票についてのお問い合わせは、下記にお願いします。

伊達市役所 未来政策部 総合政策課 経営戦略室

TEL：024-575-1142

FAX：024-575-2570

E-mail：manage@city.fukushima-date.lg.jp



はじめに、あなたご自身のことについておたずねします。

問1 あなたご自身のことについて、それぞれの項目ごとにあてはまる番号を選んで1つに○印をつけてください。

(1) あなたの性別	1. 男性 2. 女性	
(2) あなたの年齢	1. 10代 2. 20代 3. 30代 4. 40代	5. 50代 6. 60代 7. 70歳以上
(3) あなたのお仕事	1. 会社員 2. 公務員・教職員 3. パート・アルバイト 4. 自営業 5. 農林業	6. 学生 7. 専業主婦・主夫 8. 無職 9. その他
(4) あなたのお住まいの地域	1. 伊達地域 2. 梁川地域 3. 保原地域	4. 霊山地域 5. 月舘地域



まちへの愛着度と定住意向などについておたずねします。

問2 あなたは、伊達市に対して「自分のまち」としての愛着をどの程度感じていますか。(1つに○印)

1. 愛着を感じている 2. どちらかといえば愛着を感じている 3. どちらともいえない 4. どちらかといえば愛着を感じていない 5. 愛着を感じていない	
--	--

問3 あなたは、これからも伊達市に住み続けたいと思いますか。(1つに○印)

1. 住み続けたい 2. どちらかといえば住み続けたい 3. どちらともいえない 4. どちらかといえば住みたくない 5. 住みたくない	
--	--

問 4 あなたは、伊達市に備わっている魅力は何だと思いますか。（3つまで○印）

1. 豊かな自然	11. 歴史文化や伝統芸能
2. 道路・交通の利便性	12. 活力ある産業や特産品
3. 上・下水道やごみ処理施設などの 生活環境施設	13. 魅力ある観光資源
4. 住みやすい住宅地	14. 買物の利便性
5. 整備された情報通信網	15. 豊富な働く場
6. 消防・防災・防犯体制	16. 人情味や地域の連帯感
7. 福祉サービス	17. おいしい食べ物
8. 保健・医療環境	18. 若者の遊ぶ場所
9. 子育て・教育環境	19. 特に魅力を感じない
10. 文化・スポーツ環境	20. その他 (具体的に：)

問 5 あなたは、伊達市に不足していることは何だと思いますか。（3つまで○印）

1. 豊かな自然	11. 歴史文化や伝統芸能
2. 道路・交通の利便性	12. 活力ある産業や特産品
3. 上・下水道やごみ処理施設などの 生活環境施設	13. 魅力ある観光資源
4. 住みやすい住宅地	14. 買物の利便性
5. 整備された情報通信網	15. 豊富な働く場
6. 消防・防災・防犯体制	16. 人情味や地域の連帯感
7. 福祉サービス	17. おいしい食べ物
8. 保健・医療環境	18. 若者の遊ぶ場所
9. 子育て・教育環境	19. 特に不足しているところはない
10. 文化・スポーツ環境	20. その他 (具体的に：)

問 6 あなたは、市全体や各地域の特徴と課題が伊達市のまちづくりに反映されていると思いますか。（1つに○印）

1. そう思う	
2. どちらかといえばそう思う	
3. どちらかといえばそう思わない	
4. そう思わない	
5. わからない	

まちの現状と今後の取り組みについておたずねします。

問7 伊達市では、これまで伊達市第2次総合計画（平成27年度～令和4年度）に基づき、各分野にわたる様々な取り組みを進めてきました。以下の項目についての現状の満足度と、今後の重要度をおたずねします。

(1) あなたは、以下の項目について、現在どの程度満足していますか。それぞれの項目についてあてはまる番号1つに○印をつけてください。

(2) あなたは、以下の項目について、今後どの程度重視していますか。それぞれの項目についてあてはまる番号1つに○印をつけてください。

項 目	(1)満足度						(2)重要度				
	満足している	どちらかといえば満足している	どちらかといえば不満である	不満である			重視している	やや重視している	どちらかといえばない	あまり重視していない	重視していない
1. 市民協働・生活安全・行財政分野 											
①市民協働に関する取り組み（市民との協働の仕組みづくり、市民活動の支援等）	5	4	3	2	1	→	5	4	3	2	1
②男女共同参画に関する取り組み（意識啓発・情報提供の推進等）	5	4	3	2	1	→	5	4	3	2	1
③コミュニティ活動に関する取り組み（活動の支援、施設の充実・活用等）	5	4	3	2	1	→	5	4	3	2	1
④国内外との交流活動に関する取り組み（国際・国内姉妹都市等との交流促進等）	5	4	3	2	1	→	5	4	3	2	1
⑤消防・救急体制（消防団の充実、常備消防・救急体制の充実等）	5	4	3	2	1	→	5	4	3	2	1
⑥防災体制（情報伝達体制の充実、自主防災組織の育成、施設の耐震化等）	5	4	3	2	1	→	5	4	3	2	1
⑦交通安全体制（交通安全施設の整備、意識啓発の推進等）	5	4	3	2	1	→	5	4	3	2	1
⑧防犯体制（意識啓発の推進、犯罪抑止活動の推進等）	5	4	3	2	1	→	5	4	3	2	1
⑨消費者対策（トラブル防止に向けた意識啓発や情報提供、相談の推進等）	5	4	3	2	1	→	5	4	3	2	1
⑩行財政改革に関する取り組み（組織や事務事業の見直し、財政の健全化等）	5	4	3	2	1	→	5	4	3	2	1
⑪広報・広聴活動に関する取り組み（市政だよりやホームページ等の内容充実等）	5	4	3	2	1	→	5	4	3	2	1

項目 評価	(1)満足度						(2)重要度				
	満足している	どちらかといえば満足している	どちらかといえば不満である	不満である			重視している	やや重視している	どちらかといえばない	あまり重視していない	重視していない
2. 子育て・教育・文化分野 											
①子育て支援体制（保育・子育て支援サービスの充実、相談・学習の場の充実等）	5	4	3	2	1	→	5	4	3	2	1
②学校教育環境（教育内容の充実、施設の整備充実等）	5	4	3	2	1	→	5	4	3	2	1
③生涯学習環境（学習機会・内容の充実、施設の整備充実、読書活動の促進等）	5	4	3	2	1	→	5	4	3	2	1
④スポーツ環境（スポーツ団体の育成、施設の整備充実等）	5	4	3	2	1	→	5	4	3	2	1
⑤文化財の保護に関する取り組み（文化財の保存・活用、無形文化財の継承支援等）	5	4	3	2	1	→	5	4	3	2	1
⑥文化芸術環境（文化芸術にふれる機会の提供、活動の支援、施設の充実等）	5	4	3	2	1	→	5	4	3	2	1
3. 産業分野 											
①農業振興に関する取り組み（農業生産基盤の整備、担い手の育成等）	5	4	3	2	1	→	5	4	3	2	1
②森林整備・保全に関する取り組み（森林施業・適正管理の促進等）	5	4	3	2	1	→	5	4	3	2	1
③工業振興に関する取り組み（企業誘致の推進、既存企業への支援等）	5	4	3	2	1	→	5	4	3	2	1
④商業振興に関する取り組み（商店街の活性化支援、経営安定化の支援等）	5	4	3	2	1	→	5	4	3	2	1
⑤観光振興に関する取り組み（観光資源の開発、受け入れ体制の充実等）	5	4	3	2	1	→	5	4	3	2	1
⑥雇用対策（就職支援、職業能力開発の支援等）	5	4	3	2	1	→	5	4	3	2	1

項目 評価	(1)満足度						(2)重要度				
	満足している	どちらかといえば満足している	どちらかといえば不満である	不満である			重視している	やや重視している	どちらかといえばない	あまり重視していない	重視していない
4. 保健・医療・福祉分野 											
①地域福祉体制（地域全体で支え合う体制づくり、情報発信・相談の充実等）	5	4	3	2	1	→	5	4	3	2	1
②障がい者支援体制（福祉サービスの充実、社会参加の促進等）	5	4	3	2	1	→	5	4	3	2	1
③高齢者支援体制（福祉・介護サービスの充実、生きがいづくりの促進等）	5	4	3	2	1	→	5	4	3	2	1
④保健サービス提供体制（健康づくり活動の促進、各種健診・相談・指導の充実等）	5	4	3	2	1	→	5	4	3	2	1
⑤医療体制（広域連携等による救急医療体制・地域医療体制の充実等）	5	4	3	2	1	→	5	4	3	2	1
5. 生活環境・生活基盤分野 											
①環境保全に関する取り組み（意識啓発の推進、自然環境の保全、公害の防止等）	5	4	3	2	1	→	5	4	3	2	1
②地球温暖化対策（省エネルギーの促進、再生可能エネルギーの導入等）	5	4	3	2	1	→	5	4	3	2	1
③ごみ処理体制（収集・処理体制の充実、ごみの減量化の促進等）	5	4	3	2	1	→	5	4	3	2	1
④道路の整備状況（国・県道の整備促進、市道の整備・維持管理等）	5	4	3	2	1	→	5	4	3	2	1
⑤公共交通の状況（鉄道・路線バスの利便性向上の促進、デマンド交通の充実等）	5	4	3	2	1	→	5	4	3	2	1
⑥住宅施策の状況（市営住宅の整備充実、住宅耐震化の促進、住宅地の形成促進等）	5	4	3	2	1	→	5	4	3	2	1
⑦移住・定住促進対策（移住相談・体験事業の推進、空き家バンクの充実等）	5	4	3	2	1	→	5	4	3	2	1
⑧公園・緑地の整備状況（公園・緑地の整備・維持管理、緑化活動の促進等）	5	4	3	2	1	→	5	4	3	2	1
⑨情報環境（行政及び様々な分野におけるICT（情報通信技術）の活用等）	5	4	3	2	1	→	5	4	3	2	1

項目 評価	(1)満足度						(2)重要度				
	満足している	どちらかといえば満足している	どちらかといえば不満である	どちらかといえば不満である	不満である		重視している	やや重視している	どちらかといえばない	あまり重視していない	重視していない
⑩水道の整備状況（水道施設の整備充実、安全で良質な水の安定供給等）	5	4	3	2	1	→	5	4	3	2	1
⑪下水道の整備状況（下水道施設の整備、合併処理浄化槽の普及促進等）	5	4	3	2	1	→	5	4	3	2	1
⑫放射能対策（放射線量測定・検査の継続、情報提供の推進等）	5	4	3	2	1	→	5	4	3	2	1

問8 あなたは、今後のまちづくりにおいて、伊達市をどのような特色のあるまちにすべきだと思いますか。（2つまで○印）

1. 市民と行政とが協力してまちづくりを行う市民協働のまち
2. 災害に強く、犯罪や事故のない安全・安心のまち
3. 子育て環境や子どもの教育環境が充実した子育て・教育のまち
4. 生涯学習活動や文化芸術・スポーツ活動が活発な生涯学習・文化のまち
5. 歴史的遺産を大切にし、まちづくりに生かす歴史のまち
6. 農業を中心として発展する農業のまち
7. 商店街の振興や地場産業の育成、企業誘致による商工業のまち
8. 地域資源を活用し、観光や交流事業を進める観光・交流のまち
9. 人にやさしい保健・医療・福祉の充実した健康・福祉のまち
10. 自然の保護や環境の保全・創造を優先する環境保全のまち
11. 快適な居住環境の整備を優先する快適住環境のまち
12. 先端技術を導入し、様々な仕組みを変革していくデジタル化推進のまち
13. その他（具体的に：



地域活動についておたずねします。

問9 伊達市では、「伊達市シティプロモーション指針」に基づき、市民の皆様による地域活動（環境整備、防災活動、地域内での子育てなど、お住いの地域に対して愛着を持って自主的に行う活動）に対する意欲の向上に取り組んでいます。地域活動などに関する次の設問にお答えください。

（1）あなたは、地域活動に参加したいと思いますか。（1つに○印）

1. 参加したい
2. どちらかといえば参加したい
3. どちらともいえない
4. どちらかといえば参加したくない
5. 参加したくない



（2）あなたは、市民が行っている地域活動にどの程度感謝していますか。（1つに○印）

1. とても感謝している
2. まあまあ感謝している
3. どちらでもない
- 4.それほど感謝していない
5. 感謝していない

（3）あなたは、伊達市の魅力を友人や知人におすすめしたいと思いますか。（1つに○印）

1. おすすめしたい
2. どちらかといえばおすすめしたい
3. どちらともいえない
4. どちらかといえばおすすめしたくない
5. おすすめしたくない

公共施設についておたずねします。

問10 伊達市では、急激な人口減少や少子高齢化に加え、厳しい財政状況の中で、公共施設の老朽化やニーズの変化に対応する必要があり、施設の配置適正化に取り組んでいます。まちづくりの視点から市民協働で公共施設のあり方を考えるため、次の設問にお答えください。

(1) あなたは、どのような移動手段で公共施設を利用していますか。(〇印はいくつでも)

1. 徒歩
2. 車いす
3. 自転車
4. 自動車・バイク
5. 公共交通（バス・タクシー）
6. その他（具体的に：



)

(2) あなたが利用する機会が多い公共施設は、自宅からどの程度の距離にありますか。(1つに〇印)

1. 徒歩5分以内
2. 車で2～3分（徒歩約10分以内）
3. 車で10分以内（徒歩約30分以内）
4. 車で10～30分
5. 車で30分以上



(3) 公共施設の維持・管理には多額の費用がかかることから、伊達市を含む多くの自治体が施設の統廃合を進め、コストの低減、施設の効率化に取り組んでいます。このことについて、あなたはどのようにお考えですか。(1つに○印)

1. 効率化に伴い、施設を統廃合するのはやむをえない
2. 現在使用している施設が使用できるうちは残すべきであるが、多額の修繕費用がかかる状況となれば、廃止はやむをえない
3. 現在使用している施設はすべて残し、多額の費用をかけても改修すべき
4. ほかの事業において支出を減らし、施設の維持管理・改修の費用にあてるべき
5. その他(具体的に:)

(4) 公共施設の集約・統廃合を行う場合、どのような施設から対象にすべきとお考えですか。(3つまで○印)

1. 老朽化が進んでいる施設
2. 利用者が少ない、または稼働率の低い施設
3. 維持費用などコストがかかりすぎる施設
4. 社会情勢の変化などにより市民ニーズに合わなくなった施設
5. 同じような施設や代わりに利用できる施設が近隣にある施設
6. 民間施設と同じようなサービスを行っている施設
7. 一部の個人・団体にしか使われていない施設
8. その他(具体的に:)



自由意見についてご記入ください。

◎ 最後に、あなたが現在もしくは将来に向けて市の行政に望むことや、まちづくりに関するご意見・ご提案がありましたら、ご自由にご記入ください。

[illegible]

ご協力ありがとうございました。



ご記入いただいた調査票は、**9月29日（水）まで**に同封の返信用封筒に入れて郵便ポストに投函してください（切手は不要です）。